FEtherA PCI-TX

取扱説明書

http://www.corega.co.jp

PN J613-C3505-00 Rev.A 990401

使用および取り扱い上の注意

本製品を安全に使用するために、以下の事項を必ず守ってください。これらの事項が守られていない場合、感電、怪我、火災、故障などの原因になります。

稲妻危険

稲妻が発生しているとき、本製品やケーブルの設置などの作業を行わないでください。落雷により、感電する恐れがあります。

取り扱いは丁寧に

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えたりしないでください。

静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、拡張スロット接続コネクタの接点部分、部品などに素手で触れないでください。

取り付け及び取り外し時の注意

パソコンの拡張スロットに本製品を取り付ける作業は、必ずパソコンの電源を切ってから行ってください。電源を入れたまま、この作業を行うとパソコンや本製品の故障の原因となることがあります。

動作温度

本製品は温度0～50 ℃、湿度最大90%(ただし、結露なきこと)の範囲内でご使用下さい。

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・ 暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、絨毯を敷いた場所（静電気障害の原因にもなります）
- ・腐食性ガスの発生する場所

この度は、corega FEtherA PCI-TX LANアダプターをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。この取扱説明書をお読みになり、正しい設置を行ってください。また、お読みになった後も、大切に保管してください。

目次

1 概要 2
1.1 本製品の特長 2
1.2 各部の名称と働き 2
1.3 付属ドライバー 3
1.4 100BASE-TXについて 3
1.4.1 100M /10Mbps Ethernet 3
1.4.2 100BASE-T 3
1.4.3 100BASE-TX 3
1.5 Full DuplexとAutonegotiation機能 4
1.5.1 Full Duplex 4
1.5.2 使用できる通信モード 4
1.5.3 Autonegotiation機能とは 4
1.6 ACPI機能とWake On LAN機能 4
1.6.1 ACPI機能について 4
1.6.2 Wake On LAN機能について 4

2 設置・配線 5
2.1 パソコンへの組み込み 5
2.2 パソコンからの取り外し 5
2.3 WOL(Wake On LAN)ケーブルの接続 5
<参考.1> AT互換機用WOLケーブルの接続方法 5
<参考.2> PC98-NX用WOLケーブルの接続方法 6
2.4 ネットワークに接続する 6
使用するハードウェア資源について 6

3 Windows95へのインストール 7
3.1 準備 7
3.2 Windows95のバージョン確認 7
3.3 ドライバーのインストール 7
3.4 インストール後の確認 9
3.5 ネットワークの設定 10
3.6 ドライバーの削除 10
3.7 通信速度/通信モードの設定(詳細設定) 10
3.8 ドライバーの再インストール 11

4 Windows98へのインストール 12
4.1 準備 12
4.2 ドライバーのインストール 12
4.3 インストールの確認とアダプターの設定 13
4.4 ドライバーの更新 14
4.5 ドライバーの削除 16
4.6 通信速度/通信モードの設定(詳細設定) 16
4.7 ドライバーの再インストール 17

5 トラブルシューティング 17
5.1 デバイスマネージャでのエラー 17
5.2 使用許可の切替 18
(Windows98、Windows95のVersion BまたはCのみ) 18
5.3 リソース値重複の回避 18
5.4 ご使用パソコンの確認 18
5.5 ハードウェアの故障 18
5.6 その他 18
5.7 LINKランプが点灯しない 18

6 Windows NT Version 4.0 19
6.1 準備 19
6.2 インストールする前に 19
6.3 ドライバーのインストール 19
6.4 リソースの確認(インストール後) 22
6.5 本製品を使用しないとき 23
6.6 ドライバーの削除 23
6.7 通信速度/通信モードの設定(詳細設定) 24
6.8 再インストール 24

A 付録 25
A.1 製品仕様 25
A.2 RJ-45モジュラージャック 25
A.3 MACアドレス 25

B 保証と修理について 25
B.1 保証について 25
B.2 修理について 25

C coregaNet-Newsの購読について 25

D ユーザーサポート 26
corega サポートセンター窓口 26
D.1 調査依頼書の記入について 26
D.2 システムリソースレポート添付のお願い 26
D.3 最新ドライバーの入手方法 26

E ネットワークの設定例 27
E.1 ピアツーピア 接続するための設定方法 27
E.2 Microsoftネットワーククライアントと NetBEUIの確認 27
E.3 Microsoftネットワーク共有サービスの追加方法 27
E.4 ユーザー情報の確認手順 27
E.5 パソコンの共有設定の方法 28
E.6 他のパソコンへ接続方法 28
E.7 「Microsoftネットワーククライアント」と「NetBEUI」の追加方法 29

おことわり 29
調査依頼書 30
製品保証規定／製品保証書（1年保証）

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

FEtherA-MAN.pm6 Page 1 00/05/19, 11:21 Adobe PageMaker 6.0J/Win

1 概要

corega FEtherA PCI-TX(以下、本製品と略します) は、PCI 規格(PCI ローカルバス仕様Ver2.1 以上)に適合した PCI バスを持つコンピューターをファーストイーサネット(100M/10Mbps Ethernet)のLANシステムに接続するためのLANアダプターです。Plag&Play機能に対応しているため簡単にセットアップすることができます。

1.1本製品の特長

本製品は、IEEE802.3 10BASE-T 規格及び、IEEE802.3u Fast Ethernet 規格に準じた100BASE-TX 規格に適合しており、ご使用のネットワーク環境に応じて 100M/10Mbps Ethernet を自動的に切り替えて動作します。

(1) 32bitバス・マスタ転送方式を採用
(2) 100M/10Mbps通信を同一のポート(RJ-45 コネクター)においてサポート(自動切替)
(3) 100M/10Mbps通信でHalf Duplex(半二重通信)、Full Duplex(全二重通信)が可能
(4) 100M/10Mbpsの自動切替が可能
(5) PCI BIOSによるオートコンフィグレーション(I/Oアドレス、インタラプトレベルの自動設定)
(6) OADG 仕様の AT 互換機 /PC98-NX、NEC PC-98 シリーズに対応
(7) AutoNegotiation機能搭載†
†「1.5 Full Duplex と Autonegotiation 機能」を参照してください。
(8) ACPI 機能†に対応予定(省電力の低減を実現可能)

注意 **ACPI 機能は、Windows2000(または、WindowsNT5.0)が正式にリリースされた後に弊社が提供する新ドライバーにより、動作が可能となりますので、予めご了承ください。**また、ACPI 対応のコンピュータ(搭載マザーボード)、オペレーティングシステム(OS)とドライバーのもとで正常に動作するものです。ご使用パソコンの ACPI を対応できる条件や BIOS の設定などについては、ご使用パソコンメーカーにお問い合わせください。

注意 **■ネットワークブートROMソケットについて**
本製品は、ネットワークブート ROM ソケット(図1.2.1⑦)を実装していますが、現時点では、ネットワークブートROM機能には対応しておりません。予めご了承ください。

注意 **■Wake On LAN機能について(WOLケーブル、コネクタ)**
本製品は、Wake On LAN 機能対応の WOL コネクタ(図1.2.1 ⑧)を実装し、WOL ケーブル(図1.2.1 ⑨)を同梱しております。ハード上においては、Wake On LAN 機能が使用可能になっておりますが、Wake On LAN 機能については、サポート対象外となりますので、予めご了承ください。 尚、お客様が、Wake On LAN対応パソコンを使用し、Wake On LAN 機能を使用する場合は、ご使用パソコンのBIOSの設定または、OS上での設定が必要となりますので、**詳しくは、ご使用パソコンのマニュアルをご覧いただくか、パソコンメーカにお問い合わせください。**

注意 **本製品は、通信速度(100Mbps/10Mbps)の状態を確認するための表示(LED)を装備しておりません。接続先の対向装置に通信速度の表示(LED)機能がある場合は、接続先の機器を参考にしてください。**

1.2各部の名称と働き

図1.2.1をもとに本製品の主要な部分の名称と働きを説明します。

① **RJ-45 モジュラージャック**
UTP ケーブル(シールドなしツイストペアケーブル)を接続するコネクターです。本製品とネットワークを接続する UTP ケーブルは以下のものをご使用ください。†1尚、ネットワークケーブルのご購入につきましては、弊社までお問い合わせください。
■ 100BASE-TX の UTP ケーブル
必ず、カテゴリー５のケーブルをご使用ください。
■ 10BASE-T の UTP ケーブル
カテゴリー３、４、５のケーブルをご使用ください。

② **MAC アドレス**
本製品の MAC アドレスが記載されています。MAC アドレスについては『付録A MAC アドレス』をご覧ください。

③ **LINK ランプ(緑)**
対向装置(ハブなど)と本製品との間がケーブルで接続され、リンク動作が正常に完了し、通信が可能な状態に点灯します。

④ **ACT ランプ(緑)**
対向装置(ハブなど)と本製品がケーブルで接続され、パケットデータの送受信が行われている状態のときに点滅します。

⑤ **PCI バスコネクター**
本製品とパソコンをインターフェースするためのコネクターです。ご使用パソコンの PCI バスに挿入する部分です。

⑥ **シリアル番号／製品リビジョン**
製品のシリアル番号(製造番号)とリビジョンが記入されています。同じものが、3枚同梱されており、パッケージ(外箱)にも貼付されています。同梱されているシリアル番号ラベルは、本冊子巻末の「製品保証書」に貼付してください(残る２枚は予備です)。**シリアル番号とリビジョンは、ユーザーサポートへの問い合わせ時に必要な情報です。**

⑦ **ネットワークブート ROM ソケット**
現状は、使用しておりません。

⑧ **WOL コネクタ(WOL ＝ Wake On LAN の略)**
本製品に添付されている WOL ケーブルを接続します。

⑨ **WOL ケーブル(DOS/V 用、PC98-NX 用)**
Wake On LAN 機能を使用する際に使用可能です。(Wake On LAN 機能を実行するためには、Wake On LAN 機能用ソフトウェアが必要です。) **本製品には、Wake On LAN 機能用ソフトウェアは同梱しておりませんので、予めご了承ください。**

WOL ケーブル及び、コネクタの正しい接続方法については、ご使用パソコンのマニュアルをご覧ください。

†1 不適当なカテゴリー番号(数字が小さいなど)のケーブルや品質の悪いケーブルをしようすると、「リンクができない」「通信エラーが発生する」「通信できない」などの障害が発生します。尚、UTP ケーブルは外見ではカテゴリー番号を区別できないため、様々なカテゴリーケーブルが混在したネットワーク環境の場合は、特にご注意ください。

FEtherA-MAN.pm6 Page 2 00/05/19, 11:21 Adobe PageMaker 6.0J/Win

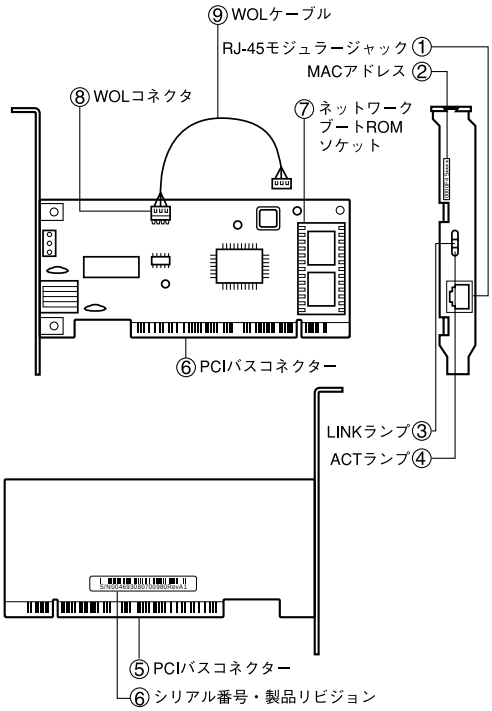


図1.2.1 corega FEtherA PCI-TX外観図とWOLケーブル

1.3 付属ドライバー

本製品のドライバーディスクには、以下のドライバーが含まれています。このマニュアルの内容よりもさらに詳しい情報が必要な場合は、ドライバーディスクに含まれる「README.1ST」ファイル†をご覧ください。また、「README.1ST」ファイルは、このマニュアルに記載されていない最新の情報を提供しております。

- **Windows95/98用 NDISドライバー**
- **Windows NT4.0用 NDISドライバー**

† README.1STは、以下の手順でお読みください。(Windows95の例)
① Windowsスタートメニューの「プログラム」ー「アクセサリ」ー「メモ帳」を実行します。
②「ファイル(F)」ー「開く(O)」で、ご使用パソコンのフロッピードライブの「README.1ST」を選択し、「開く」ボタンをクリックします。
例)フロッピードライブを「A:」ドライブとした場合:A:\README.1ST

1.4 100BASE-TXについて

1.4.1 100M /10Mbps Ethernet

従来のEthernetの標準はデータ伝送能力(ネットワーク全体の帯域幅)が10Mbps (=1.25M bytes/sec)のものであり、これを特に10M Ethernetと呼びます。これに対し、100Mbpsというデータ伝送能力を持つより高速なEthernet規格を総称して、100M Ethernetと呼びます†1。100M Ethernetに対応したネットワークでは100Mbpsという高速なデータ転送によりネットワークの帯域を拡大し、画像や音声などの大量のデータ通信や、多数のクライアントがアクセスするサーバーに対してスループット(単位時間あたりの転送速度)を向上させることが可能です。
100M Ethernetには100BASE-T (IEEE802.3u) や 100VG-AnyLAN (IEEE802.12)†2などがあり、このうち、本製品は100BASE-Tに対応しています。
IEEE802委員会により1992年から行われている100M Ethernetの規格化は、100BASE-Tについては IEEE802.3u として、100VG-AnyLANについてはIEEE802.12としてほぼ標準化が完了しています。

1.4.2 100BASE-T

IEEE802.3uで標準化された100BASE-Tは、10BASE-T†3 (10Mbps)の100Mbps版であり(Fast Ethernetとも呼ばれています)、従来の10BASE-T規格を継承した仕様になっています。100BASE-Tは、現在のネットワーク管理ツールやプロトコルに関する知識をそのまま適用することが可能であり、また10BASE-Tとの混在も可能なため、あらゆるネットワーク環境に柔軟に対応することができます。
また、100BASE-TにはオプションとしてFull Duplex(全二重)通信とAutonegotiation機能が用意されており、本製品はどちらの機能も装備しています。詳細は「1.5 Full Duplexと Autonegotiation機能」をご覧ください。

1.4.3 100BASE-TX

IEEE802.3uで標準化された100BASE-Tは、100BASE-TX・100BASE-FX・100BASE-T4の3つの規格があり、それぞれ使用するケーブルの種類が異なります。このうち、本製品が対応している規格は100BASE-TXであり、これはカテゴリー5のUTPケーブル(RJ-45コネクター)を使用します。100BASE-TXの特長として、IEEE802.3 (10BASE-T) との互換性の維持を最大の目的として開発されていることが挙げられ、従来の10M Ethernetの環境から100M Ethernetへの移行時期にも柔軟に対応できます。また、100BASE-TXは1つのRJ-45コネクターで10BASE-Tと100BASE-TXを自動で認識し、10Mbpsと100Mbpsが混在するネットワークにおいて、速度切り替えの手間を要しません。
また、100BASE-TXは従来の10BASE-Tと同様、10Mbpsでの通信もサポートしており、現在10M Ethernetで構築・運用されているネットワーク環境にそのまま接続することができます。

† 1 この呼称(10M/100M Ethernet)は規格そのものを意味する他に、規格に対応したネットワークを指す場合もあります。
† 2 100VG-AnyLANと100BASE-Tとの共存はできません。
† 3 Ethernetのデータ伝送メディアとして使用されるネットワークケーブルの規格、もしくはケーブル自体を指します。10BASE-Tを使用したネットワークはハブを中心としたスター構成となります。

1.5 Full Duplexと Autonegotiation機能

1.5.1 Full Duplex

本製品はFull Duplex機能を備えています。Full Duplexとは、IEEE802.3x規格において規定されている機能の一つで、コリジョン検出の機能とループバック機能を省略することで200Mbps(最大)の伝送速度を実現します。Full Duplexを実現するためには、以下のネットワーク環境をお勧めいたします。

① 本製品を装着した2台のコンピュータ同士をクロスケーブルで接続する場合

② 本製品の対向装置にスイッチングハブを使用する場合

1.5.2 使用できる通信モード

本製品では、以下の4種類の通信モードを使用できます。

1) 100Mbps Full Duplex(100Mbps 全二重通信)
2) 100Mbps Half Duplex(100Mbps 半二重通信)
3) 10Mbps Full Duplex(10Mbps 全二重通信)
4) 10Mbps Half Duplex(10Mbps 半二重通信)

1.5.3 Autonegotiation機能とは

本製品はAutonegotiation機能を搭載しています。Autonegotiation機能とは、通信に先立って対向装置(スイッチングハブなど)がサポートしている通信速度を判断し、最適な通信速度を選択する機能です。**ただし、対向装置も同様にAutonegotiation機能を持っていることが必要です。**
対向装置が上記(1.5.2項)の4つの通信モードのうち2つ以上の通信モードをサポートし、Autonegotiation機能を持つ場合は、通信速度の速い順番[1)→2)→3)→4)]で選択されます。例えば、2)と4)をサポートしている場合は、2)を選択して通信を行います。対向装置がAutonegotiation機能を持たない場合に本製品のAutonegotiation機能を有効にしたままで通信を行うと、通信速度の選択のみが自動的に行われますが、Duplexモードは、常にHalf Duplexが選択されます。例えば、対向機器が100M Full Duplexをサポートしている場合は、100M Half Duplexで通信を行ってしまいます。この場合は、ドライバーをインストール後、手動で最適な通信モードに設定して下さい。†4

†4 対向機器が半二重通信にのみ対応している(シェアードハブなど)場合、本製品を全二重通信固定に設定することは障害の原因となりますので避けてください。この場合は対向機器と同様に半二重通信の固定にするか、あるいはAutonegotiation機能を有効にしてご使用ください。

1.6 ACPIとWake On LAN機能

1.6.1 ACPI(Advanced Configuration Power Interface)

ACPIとは、インテルがマイクロソフト、東芝と共に提唱している、新しいパソコンのパワーマネージメント(省電力管理)の技術です。(ACPI仕様Ver1.0は、1997年1月6日に発表され、業界共通で汎用の、PCハードウェア、オペレーティング・システム、周辺装置インタフェース仕様で、オペレーティングシステム(OS)・マザーボード・ハードウェアおよび周辺装置 [CD-ROM、ハード・ディスク、LANアダプターなど拡張ボード] が電力消費についての情報を交換する一定の方法を指定します。)

ACPI機能は、オペレーティング・システム(OS)レベルで電力制御の消費電力を管理し、必要時にのみ周辺装置に電力を供給するので、システム全体としての省電力による節電が可能となります。

> **注意** ご使用パソコンにおける、ACPI機能(省電力の電源管理)の設定方法は、ご使用パソコンの機種によって設定方法が異なります。**ACPI機能による電源管理の設定方法や動作における詳しい情報は、ご使用パソコンのマニュアルをご覧いただくか、ご使用パソコンのパソコンメーカーへお問い合わせください。**

■ACPI対応LANアダプターの使用事例

[オフィス編]

オフィスは、最もパソコンが集中するところであり、就業中は常にシステムの電源が入ったままで、信頼性やネットワーク管理の関係で、パソコンの電源を切らない場合も多くなります。 従来のLANアダプターでは、消費電力の制御を行わず、常に消費電力が最大の状態で使われることが多かったのですが、この ACPI対応LANアダプターを導入することにより、パソコンを未使用時のハードディスクやディスプレイの電源をサスペンド(休止)状態のときには、LANアダプター自体の消費電力を省電力モードへ制御することができるようになります。また、忙しい時間帯で瞬時にパソコンをサスペンド(休止)状態から復帰させた場合でも、電子メールや共有フォルダやプリンターを使用することが可能になります。

1.6.2 Wake On LAN機能について

ネットワーク(LAN)上にあるパソコンから、ネットワーク上のパソコン(本製品を取り付けており、正常にネットワーク通信が動作する)に対し、リモートから、電源をオンできる機能です。†1、†2
但し、本製品では、Wake On LAN機能に必要なソフトウェアを同梱しておりません。また、Wake On LAN機能についてはサポート対象外となりますので、予めご了承ください。

†1 リモートパワーマネージメント管理ソフトウェアが必要です。
†2 Wake On LAN対応のパソコンとオペレーティング・システム(OS)、ドライバーがインストールされ、Wake On LAN機能を動作できる環境でなければなりません。

2 設置・配線

ここでは、本製品をご使用パソコンに取り付け、ネットワークケーブルをイーサネットに接続するまでの手順について説明します。

2.1 パソコンへの組み込み

以下に示す手順を参考に本製品をパソコンの拡張スロットに取り付けてください。拡張アダプターの取り付け方は、パソコン機種によって異なります。取り付け方の詳細は、ご使用になるパソコンのマニュアルをご覧ください。

(1) パソコン本体の電源をオフにしてください。

(2) 安全のためにパソコンの電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

パソコンの拡張スロットに本製品を実装する作業は、必ずパソコンの電源を切って行ってください。電源を投入したままこの作業を行うとパソコンや本製品の故障の原因となります。

(3) パソコンの天板を外してください。

(4) スロットカバーを固定しているねじを外し、スロットカバーを外してください。

(5) 本製品を拡張スロットにしっかり奥まで差し込んでください。

本製品は静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、拡張スロット接続コネクターの接点、部品などに素手で触れないでください。

(6) (4)で外したねじを使用して、本製品を固定してください。このねじは、必ず取り付けてください。

(7) ご使用パソコンがWake On LAN対応でWake On LAN機能をご使用になる場合は、本製品付属のWOLケーブルをご使用パソコンのWOL コネクタに接続します。†

注意 基本的なWOL ケーブルの接続方法については、「2.3 WOL ケーブルの接続」を参照してください。 但し、WOL ケーブルの接続方法や、マザーボード側の WOL コネクタの位置は、ご使用パソコンによって異なりますので、正しい接続方法については、ご使用パソコンのマニュアルをご覧いただくか、パソコンメーカーにお問い合わせください。

但し、Wake On LAN機能を使用しない場合は、WOLケーブルを接続する必要はありませんので、手順(8)へ進みます。

(8) パソコンの天板を元どおりに取り付けてください。

2.2 パソコンからの取り外し

(1) 本製品の組み込み手順の(1)～(3)と同様に、パソコン本体の天板を外します。

(2) 本製品を固定しているねじを外します。

(3) 本製品をゆっくり引き抜きます。引き抜く時は左右に振らずに真っすぐ引き抜いてください。

WOL ケーブルを接続している場合は、WOL ケーブルを取り外した後で、上記の作業を行ってください。
本製品は静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、拡張スロット接続コネクターの接点、部品などに素手で触れないでください。

(4) スロットカバーを元どおりに取り付けてください。

(5) パソコンの天板を取り付けてください。

2.3 WOL(Wake On LAN)ケーブルの接続

ここでは、Wake On LAN 対応パソコンをお使いの方のWOL ケーブル(本製品付属)の接続方法について説明しております。**但し、Wake On LAN機能を使用しない場合は、WOL ケーブルを接続する必要はありません。**

注意 Wake On LAN 機能を使用するには、ご使用パソコンのBIOS や OS(Wake On LAN 用環境設定)上の設定が必要です。詳しくは、ご使用パソコンのマニュアルをご覧いただくか、パソコンメーカーにお問い合わせください。
Wake On LAN 機能を使用する際には、リモートパワーマネージメント管理ソフトウェアが必要です。操作や設定の方法については、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。尚、本製品では、Wake On LAN 機能に必要なソフトウェアを同梱しておりません。

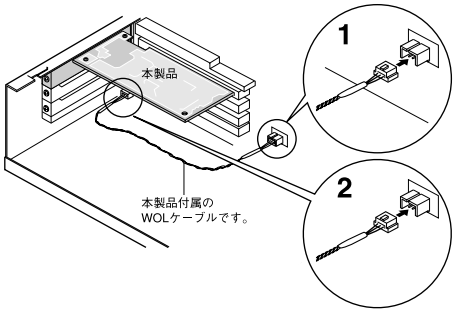
注意 本製品に付属のWOLケーブルは、２本となります。AT互換(DOS/V)用と PC98-NX 用の２種類に区別されていますので、ご使用パソコンに合わせてお使いください。

<参考 .1> AT互換機用 WOL ケーブルの接続方法

(1) ご使用パソコンのPCI コネクタの横にあるWOL(Wake On LAN)コネクタに本製品付属の WOL ケーブルを接続します。†

† WOL コネクタの位置は、ご使用パソコンによって異なります。

(2) 本製品WOL コネクタに、WOL ケーブルのもう一方側を接続します。

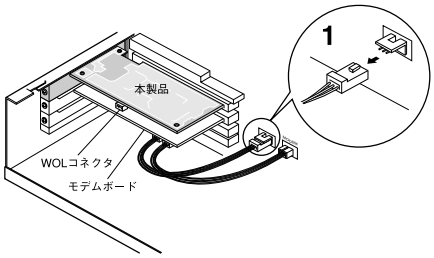


<参考 .2> PC98-NX 用 WOL ケーブルの接続方法

注意

NEC 社製の VALEUSTAR NX シリーズモデムをお使いの方は、モデムボードを標準で装備しているかをご確認ください。モデムモードが標準で装備され、既に WOL コネクタに WOL ケーブルが接続されている場合は、以下の手順で WOL ケーブルを接続してください。また、モデムボードから WOL コネクタから予め接続されているいる WOL ケーブルを外すと、リング機能†1が使用できなくなりますので予めご了承ください。詳しくはパソコンメーカーへお問い合わせください。

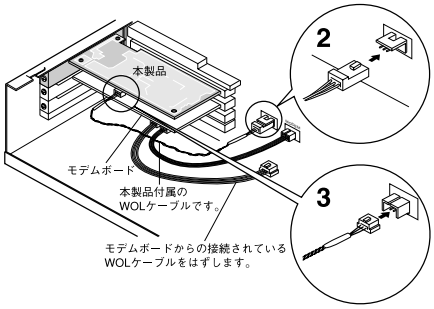
(1) モデムボードから2本のケーブルが出ており、各ケーブルの一方端側が、WOL コネクタとモデムコネクタのそれぞれに接続されています。2本の内、PCI コネクタの横のWOLコネクタに接続されているケーブルを外します。



(2) 手順(1)でケーブルを外した WOL(Wake On LAN)コネクタに本製品付属の WOL ケーブルを接続します。†

† WOL コネクタの位置は、ご使用パソコンによって異なります。

(3) 本製品 WOL コネクタに、WOL ケーブルのもう一方側を接続します。



†1 リング機能とは、電話や FAX を受信すると自動的にパソコンの電源が起動したり、レジュームしたりする機能です。詳しくは VALUESTAR NX パソコンのマニュアルをご覧ください。

2.4 ネットワークに接続する

稲妻が発生しているとき、本製品やケーブルの設置などの作業を行わないでください。落雷により、感電する恐れがあります。

(1) UTP ケーブルの一方の端に付いたプラグを、本製品の RJ-45 モジュラージャックにカチッと音がするまで差し込んでください。両端のプラグのどちらを差し込んでもかまいません。

(2) UTP ケーブルを引っ張ってみて抜けないことを確認してください。

(3) UTP ケーブルのもう一方の端に付いたプラグをハブのモジュラージャック(PORTと表記されている場合もあります)に差し込んでください。手順は、上記(1)(2)と同様です。

■ UTP ケーブルの外し方

プラグの爪を指で押えながら手前に引くと、プラグを抜くことができます。

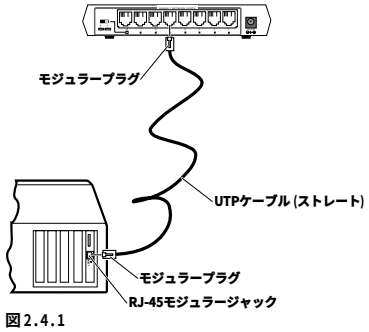


図 2.4.1

■対向装置(ハブなど)とアダプターがリンクしていることの確認

対向装置とパソコンの両方に電源を投入し、対向装置と本製品の両方の LINK ランプが点灯することで確認できます。どちらか一方しか点灯していない、または両方とも点灯しない場合は、本製品と対向装置は正しくリンクしていません。その場合は、UTP ケーブルの断線、適切なケーブルを使用していないなどの原因が考えられます。

[使用するハードウェア資源について]

本製品のドライバーをインストールすると、PCI ローカルバス仕様(Rev2.1)により、ハードウェア上で使用する資源(I/O アドレス、インタラプトレベルなど)は、自動的に設定され、管理されます。†1 そのため、ボード上あるいはソフトウェアから設定する必要がありません。

「5. トラブルシューティング」で対処しても、問題が回避されない場合は、PCI バスの設定方法を(セットアップユーティリティなど)ご使用のパソコンメーカへお問い合わせください。

†1 本製品と Plug&Play に対応していない他の拡張アダプター(ボード)を併用する場合は、拡張アダプターのための設定をご使用コンピュータに施す必要があります。拡張アダプターの設定に関しては、ご使用コンピュータのマニュアルをご覧ください。

FEtherA-MAN.pm6 Page 6 00/05/19, 11:22 Adobe PageMaker 6.0J/Win

3 Windows95 へのインストール

ここでは、Windows95 上へ本製品用ドライバーをインストールする手順について説明します。

⚠ **尚、ここに挙げたインストール手順は一例です。お客様の環境によっては、手順や表示画面が若干異なることがありますので、予めご了承ください、**

3.1 準備

インストールを始める前に、以下のものをご用意ください。

1. corega FEtherA PCI-TX アダプター、ネットワークケーブル
2. パソコン(Windows95がインストール済みのものをご用意ください)
3. Windows95 の供給ディスク(CD-ROM または、ﾌﾛｯﾋﾟｰﾃﾞｨｽｸ)
4. corega FEtherA PCI-TX ドライバーディスク

⚠ **ご使用のパソコンの OS がプリインストール版であり、バックアップ CD-ROM が付属していない場合は、必ずフロッピーディスクにバックアップを取った後でドライバーのインストールを開始してください。尚、OSのバックアップ方法については、パソコンメーカーにお問い合わせください。**

3.2 Windows95 のバージョン確認

Windows95 には、Version950、VersionA、VersionB、VersionC の４種類のバージョンがあります。各バージョンによって、本製品のドライバー・インストール時に表示されるメッセージが異なります。初めに、ご使用の Windows95 のバージョンを確認してください。

1. 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」と進み、「システム」をダブルクリックしてください。

2. 「システムのプロパティ」ダイアログが現れます。「情報」タブをクリックしてください。

■Version950
「システム：」の番号が「4.00.950」であれば Version950 です。

図3.2.1　Version95 の場合

■VersionA
「システム：」の番号が「4.00.950a」であれば VersionAです。

図3.2.2　VersionA の場合

■VersionB、VersionC
「システム：」の番号が「4.00.950 B」であれば VersionB、「4.00.950 C」であれば VersionC です。

図3.2.3　VersionB または VersionC の場合

3.3 ドライバーのインストール

1. Windows95 を終了させ、パソコンの電源をオフにしてください。さらに、安全のためにパソコンの電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

2. インストールを行う前に以下を準備してください。
   ① パソコンの拡張スロットに本製品を取り付けてください。取り付けの手順については、「2 設置・配線」やご使用のパソコンのマニュアルをご覧ください。
   ② 本製品をネットワークに接続してください。接続手順については、「2.3 ネットワークに接続する」やご使用対向装置(ハブなど)のマニュアルをご覧ください。

3. パソコンの電源プラグを電源コンセントに差し、パソコンの電源をオンにして、Windows95 を起動してください。

4. Windows95 は本製品を自動的に検出しますが、Windows95 のバージョンによって表示されるダイアログが異なります。

■Version950 または VersionA の場合

① Windows95 は、本アダプターを検出し、「新しいハードウェア」ダイアログに「PCI Ethernet Controller」と表示します。

② 「新しいハードウェア」ダイアログが表示されます。「ハードウェアの製造元が提供するドライバ(M)」のラジオボタンを選択し、「OK」をクリックしてください。

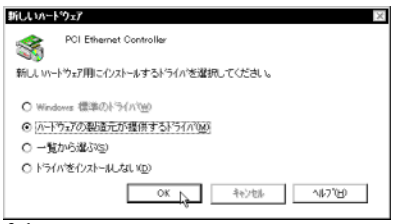


図 3.3.1

③ 「フロッピーディスクからインストール」ダイアログが表示されます。**フロッピーディスクドライブに、corega FEtherA PCI-TX ドライバーディスクを入れ、「A:**

\windows.95」と入力し、「OK」をクリックします。続いて、手順5.（次頁）へ進みます。

※ ここでは、フロッピーディスクドライブをA:と仮定します。

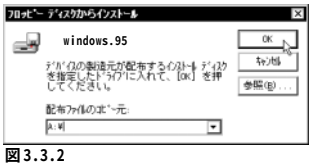


図3.3.2

■VersionBまたは VersionCの場合

① Windows95は、本アダプターを検出し、「PCI Ethernet Controller」と表示された「デバイスドライバウィザード」を起動します。

図3.3.3

② corega FEtherA PCI-TXドライバーディスクをフロッピードライブに挿入し、「次へ」をクリックしてください。

③ ②の時点でドライバーディスクをフロッピードライブに入れて置くことによって、「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter」が検出されることを確認し、「完了」をクリックしてください†1。

図3.3.4

5. ご使用のパソコンに初めてネットワークアダプターをインストールする場合は、以下のダイアログが表示されます。内容を確認し、「OK」をクリックしてください。このダイアログが表示されない場合は、3.3の手順7.に進んでください。

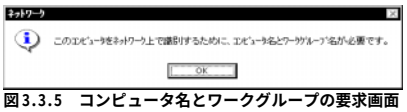


図3.3.5 コンピュータ名とワークグループの要求画面

†1 ②でドライバーディスクを挿入しなかった場合、「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした」と表示されます。この場合は、ドライバーディスクをフロッピードライブに挿入した後で、「場所の指定」ボタンをクリックし、ディレクトリを直接指定してください。通常は、ドライバーディスクのWindows95用ディレクトリ（例：「A:\windows.95」）を指定してください。

†2 このダイアログの内容をインストール後に変更する場合は「ネットワーク」（コントロールパネル）を起動し、「ユーザー情報」タブを選択してください。

6. 続いて下のダイアログが表示されます†2。システム管理者に確認の上、コンピュータ名、ワークグループ名†3およびパソコンの説明（省略可）を入力してください。

注） コンピュータ名、ワークグループ名は、必ず半角英数字の15文以内の名前にしてください。全角文字はサポートされていません。

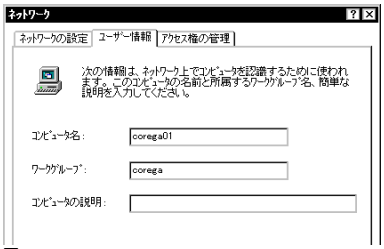
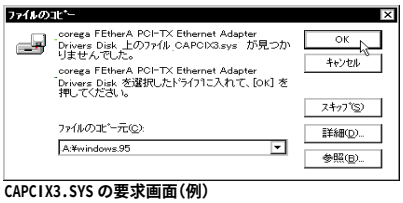


図3.3.6

7. ドライバーおよび必要なWindows95関連のファイルがハードディスクにコピーされます。コピーの途中でやドライバーファイルやWindows95関連ファイルが要求される場合は、以下をご覧になり操作してください。尚、Windows95の供給ディスクの要求に対しては、ご使用のWindows95の形態に応じて以下のようにパスを入力してください。

①「CAPCIX3.SYSが見つかりませんでした。」というメッセージが表示された場合

「CAPCIX3.SYSが見つからないのでWindows95のCD-ROMやフロッピーディスクを入れてください」というようなダイアログが表示される場合は、ドライバーディスクをフロッピードライブに入れ、ディレクトリとして「A:\windows.95」を入力してください。「CAPCIX3.SYS」はドライバーディスクに収められているファイルです。ここでは、フロッピーディスクドライブをA:と仮定します。



CAPCIX3.SYSの要求画面（例）

②下図（図3.3.7.1）の「netapi.dllが見つかりませんでした。」というようなメッセージが表示された場合

■プリインストール版Windows95の場合

Windows95ファイルが既にハードディスクにコピーされています。ダイアログではディスクを入れるように要求されますが、そのまま「OK」をクリックしてダイアログを閉じ、「C:¥windows\options\cabs」を指定してください。ここではWindows95の起動ディスクをC:と仮定します。

注意

「ファイルのコピー」ダイアログの途中で、本製品のドライバー（CAPCIX3.SYS）以外のファイルが見つからないと表示される場合が

†3 パソコン名およびワークグループ名の入力には15字以下の半角英数文字を使用します。詳細はWindows95のマニュアルおよびオンラインヘルプをご覧ください。

あります。AT互換機/PC98-NXシリーズの場合は、パスとして「D:\win98」と入力し、PC9800/PC9821シリーズの場合は、「Q:\win98n」と入力し、Windows98のCD-ROMを指示してください。ここでは、CD-ROMドライブ名をそれぞれ「D:」および「Q:」と仮定します。

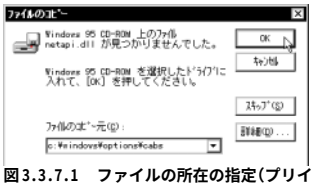


図3.3.7.1　ファイルの所在の指定(プリインストール版)

■CD-ROMの場合

CD-ROMをドライブに挿入し、ファイルのコピー元(C):の指定で、「D:\WIN95」を入力してください。ここでは、CD-ROMドライブをD:と仮定します。

図3.3.7.2　CD-ROMの要求画面

■フロッピーディスクの場合

現在挿入されている本製品のドライバーディスクを取り出し、指示された番号のディスクをフロッピーディスクドライブに入れて、「ファイルのコピー元(C):」で「A:\」を入力してください。(ここではフロッピーディスクドライブを「A:」ドライブと仮定します。)

図3.3.7.3　フロッピーディスクの要求画面

8. **この項の手順"5."~"6."においてネットワークの設定を行った場合、「システム設定の変更」が表示され、パソコンの再起動が要求されます。†4「今すぐ再起動しますか?」という問いに対して、「はい(Y)」をクリックしてください。(フロッピーディスクは、取り出してください。**

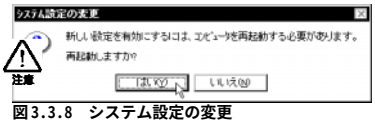


図3.3.8　システム設定の変更

パソコンの再起動が要求されなかった場合は、スタートメニューより手動で、再起動を行ってください。

9. **以上でドライバーのインストールは終了です。引き続き、「3.4 インストール後の確認」にお進みください。**

3.4 インストール後の確認

ドライバーのインストールが正常に行われていることを確認します。

1. **「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックしてください†5。インストールが正常に行われると「ネットワークアダプタ」†6の下に「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter」と表示されます。**

†4　以前に他のLANアダプターを取り付け、ネットワーク設定がされている場合は、Windows95の再起動が要求されません。**引き続き"手順9."**へお進みください。

†5　Windows95 VersionB または VersionCでは「OK」は「閉じる」となります。

†6　「ネットワークアダプタ」項目をダブルクリックすると「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter」と下に表示されます。

図3.4.1

2. **ドライバーインストールの結果(成功または失敗)を確認してます。以下を参考にしてください。**

■成功している場合

デバイスマネージャで「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter」を選択(反転表示)し、「プロパティ」→「情報」と進みます。「デバイスの状態」で「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることをご確認ください(VersionB または VersionCの方は、(注)をご覧ください)。

図3.4.2　デバイスの状態(Version 950/A)

(注) Windows95 VersionB または VersionCをご使用の場合は「ドライバ」タブが用意されています。この「ドライバ」を表示した場合、下のように「このデバイスには、ドライバファイルは必要でないか、または組み込まれていません。」という記述がありますが、これは本製品の仕様によるもので、ご使用には支障ありませんので安心してご使用ください。

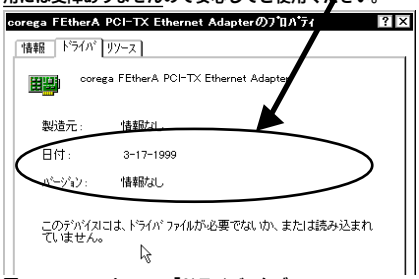


図3.4.3　VersionBの「ドライバ」タブ

■失敗している場合

「システムのプロパティ」で、本製品のアイコンに「×」「？」「！」などのマークがついていたり、あるいはアイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく、**「不明なデバイス」や「その他のデバイス」にある場合は、インストールに失敗しています。詳しくは、トラブルシューティングの「5.1 デバイスマネージャでエラー 」をご覧ください。**

3.5 ネットワークの設定

ドライバーのインストールが正常に行われていることを確認後、お客様のネットワーク環境に合わせて、必要な設定を行います。

1. 「コントロールパネル」の「ネットワーク」を起動します。
2. 使用するプロトコル、クライアントなどの設定を行います。詳細はシステム管理者にご確認ください。

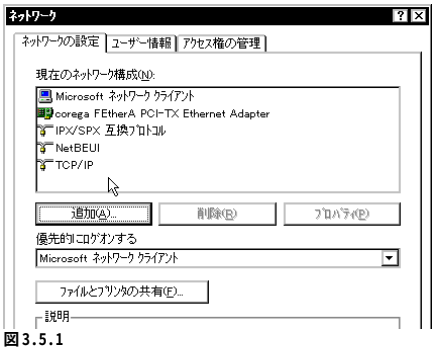


図3.5.1

3.6 ドライバーの削除

「本製品をパソコンから取り外してしまいたい」、「ドライバーを再インストールしたい」という場合は、以下の手順でドライバーを削除してください。

1. 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」と進み、「ネットワークアダプタ」に表示されている「corega FEtherA PCI-TX Ethernet LAN Adapter」を選択し、「削除(E)」ボタンをクリックしてください。（図3.4.1を参照）
2. 「デバイス削除の確認」ダイアログが表示されますので、「OK」をクリックします。

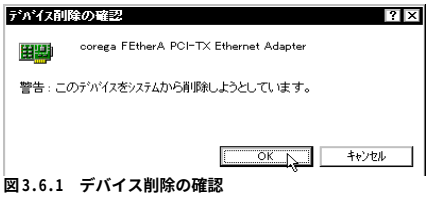


図3.6.1　デバイス削除の確認

3. 「デバイスマネージャ」から「ネットワークアダプタ」のアイコンが消えていることをご確認ください。
4. 以上でドライバーの削除は終了です。Windows95を終了させてから、パソコンの電源を切断し、本製品を拡張スロットから取り外してもかまいません。ドライバーの再インストールを行う場合は、パソコンを再起動してください。

3.7 通信速度/通信モードの設定(詳細設定)

本製品をお客様のご使用になる環境(本製品の対向機器［ハブ、スイッチングハブなど］に応じ、通信速度(100M/10Mbps)および通信モード(Full Duplex/Half Duplex)を指定できます。デフォルトは、“AutoNegotiation”です。各項目の意味は以下の通りです。(対向機器の詳細については、システム管理者にお問い合わせください。)

1. 「コントロールパネル」→「ネットワーク」のネットワークの設定ダイアログで「corega FEtherA PCI-TX Ethernet LAN Adapter」を選択し、「プロパティ(P)」ボタンをクリックしてください。

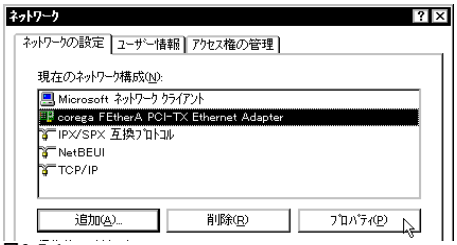


図3.7.1

2. ネットワーク設定の「詳細設定」タグをクリックし、値(V)のプルダウンリストリストより、該当の通信モード を選択し、「OK」をクリックします。設定項目については、以下をご覧ください。尚、「Connection Type」以外の各項目については、デフォルト(初期値)のままでご使用ください。

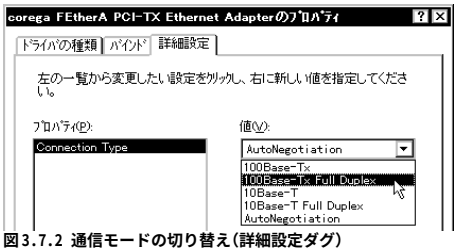


図3.7.2 通信モードの切り替え(詳細設定ダグ)

Connection Type の項目

■AutoNegotiation

Auto Negotiationを有効(Enable)に設定します。**但し、本製に品接続されている対向装置の仕様により通信動作が異なりますので、以下を参照してください。**

対向装置が AutoNegotiation をサポートしている場合

通信可能な最高の通信速度(100M/10Mbps)が選択され、更に、該当の通信モード(Full/Half Duplex)となります。

対向装置がAutoNegotiationをサポートしていない場合

AutoNegotiationをサポートしていない場合、または、Auto negotiationを無効に設定している場合は、通信速度のみを自動的に検出し、検出された速度のHalf Duplex(半二重通信)モードとなります。従って、　対向装置がAutoNegotiationをサポートしておらずに100MbpsのFull Duplex(全二重通信)モード をサポートしている場合は、上記の設定を「100Base-Tx　Full_Duplex」を選択する必要があります。

■100BaseTx
100Mbps の Half Duplex(半二重通信)モードに設定します。

■100BaseTx Full_Duplex
100Mbps の Full Duplex(全二重通信)モードに設定します。

■10BaseT
10Mbps の Half Duplex(半二重通信)モードに設定します。通常の 10M ハブはこのモードです。

■10BaseT Full_Duplex
10Mbps の Full Duplex(全二重通信)モードに設定します。

3. パソコンの再起動が要求されますので、「OK」をクリックしてください。†1

3.8 ドライバーの再インストール

「ドライバーのバージョンアップ」や「インストールを最初からやり直したい」というような場合は、以下の手順に従い、ドライバーの再インストールを実行してください。†2

■Version950 または VersionA の場合

1. ドライバーを削除します。(ドライバーを削除した後、必ずパソコンを再起動してください)。「5 トラブルシューティング」もご覧ください。(「3.6 ドライバーの削除」を参照)

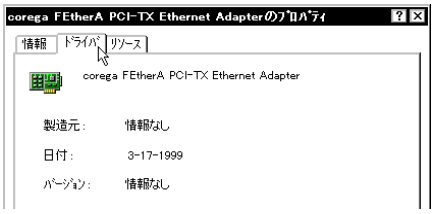
2. ドライバーの再インストールを実行します。(「3.3 ドライバーのインストール」(P7)を参照)

■VersionB または VersionC の場合

1. 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」と進み、「ネットワークアダプタ」に表示されている「corega FEtherA PCI-TX Ethernet LAN Adapter」を選択し、「プロパティ(R)」ボタンをクリックしてください。

図 3.8.1

2. 「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter のﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」ダイアログの「ドライバ」タブをクリックしてください。



3. 続いて、「ドライバ更新(U)」ボタンをクリックしてください。

4. 「デバイスドライバウィザード」が起動されます。

① 「はい(通常はこちらを選んでください)(Y)」ラジオボタンが選択されていることを確認します。
② ドライバーディスクをフロッピードライブに挿入し、「次へ」をクリックします。
③ ②の時点でドライバーディスクを入れて置くことによって、「corega FEtherA PCI-TX」のドライバーは自動的に検索されますので、ダイアログが表示されたことを確認し、「完了」をクリックしてください。
④ ドライバーの更新が開始され、「デバイスドライバウィザード」ダイアログ が自動で閉じるまでお待ちください。

5. 以上でドライバーの再インストールは終了です。

†1 “手順 2.”で設定した通信モードは、パソコンを再起動すると有効になります。
†2 再インストール手順は、ご使用 Windows95 のバージョンによって操作が異なります。バージョンを確認する場合は、「3.2 Windows95 のバージョン確認」を参照してください。

4 Windows98 へのインストール

ここでは、Windows98 上へ本製品用ドライバーをインストールする手順について説明します。

尚、ここに挙げたインストール手順は一例です。お客様の環境によっては、手順や表示画面が若干異なることがありますので、予めご了承ください、

4.1 準備

インストールを始める前に、以下のものをご用意ください。

1. corega FEtherA PCI-TX アダプター、ネットワークケーブル
2. パソコン(Windows98がインストール済みのものをご用意ください)
3. Windows98 の供給ディスク(CD-ROM または、ﾌﾛｯﾋﾟｰﾃﾞｨｽｸ)
4. corega FEtherA PCI-TX ドライバーディスク

ご使用のパソコンの OS がプリインストール版であり、バックアップ CD-ROM が付属していない場合は、必ずフロッピーディスクにバックアップを取った後でドライバーのインストールを開始してください。尚、OSのバックアップ方法については、パソコンメーカーにお問い合わせください。

4.2 ドライバーのインストール

1. Windows98 を終了させ、パソコンの電源をオフにしてください。さらに、安全のためにパソコンの電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

2. インストールを行う前に以下を準備してください。
   ① パソコンの拡張スロットに本製品を取り付けてください。取り付けの手順については、「2 設置・配線」やご使用のパソコンのマニュアルをご覧ください。
   ② 本製品をネットワークに接続してください。接続手順については、「2.3 ネットワークに接続する」やご使用対向装置(ハブなど)のマニュアルをご覧ください。

3. パソコンの電源プラグを電源コンセントに差し、パソコンの電源をオンにして、Windows98 を起動してください。

4. Windows98 は本製品を Plag&Play により「新しいハードウェアの追加ウィザード」が起動され、「PCI Ethernet Controller」と検出します。「次へ」をクリックします。

図4.2.1 新しいハードウェアの追加ウィザード

5. 検索方法選択画面が表示されますので、「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

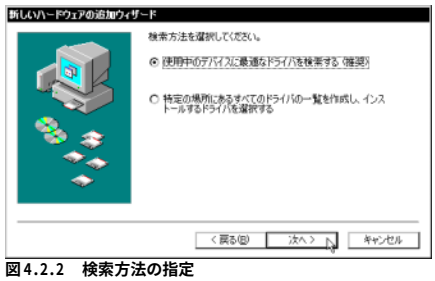


図4.2.2 検索方法の指定

6. ドライバーディスクの検索場所を選択する画面が表示されますので、「corega FEtherA PCI-TX のドライバディスクフロッピーをフロッピーディスクドライブに挿入し、**「検索場所の指定(L):」にチェックを入れ、「A:\windows.98」と入力して、へ「次へ」をクリックしてください。**

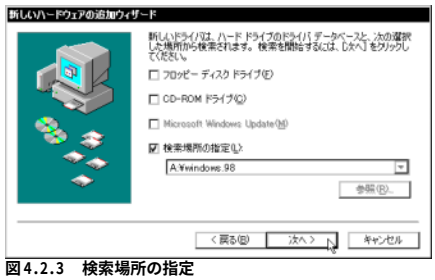


図4.2.3 検索場所の指定

7. 本製品ドライバーディスクよりアダプタ情報が読み込まれ、「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter」と表示されていることを確認し、「次へ」をクリックしてください。

図4.2.4

8. ドライバーおよび必要な Windows98 のファイルのハードディスクへのコピーが開始されます。コピーの途中でやドライバーファイルや Windows98 関連ファイルを要求される場合は、以下をご覧になり操作してください。尚、Windows98 の供給ディスクの要求に対しては、ご使用の Windows98 の形態に応じて以下のようにパスを入力してください。

①「CAPCIX4.SYS が見つかりませんでした。」というメッセージが表示された場合

「CAPCIX4.SYS が見つからないので Windows98 の CD-ROMやフロッピーディスクを入れてください」というようなダイアログが表示される場合は、ドライバーディスクをフロッピードライブに入れ、ディレクトリとして「A:\windows.98」を入力してください。「CAPCIX4.SYS」はドライバーディスクに収められているファイルです。ここでは、フロッピーディスクドライブを A:と仮定します。

図 4.2.5.1　CAPCIX4.SYS の要求画面(例)

■ドライバーディスクの要求

また下図の様なダイアログがと表示され、本製品のドライバーディスクを要求された場合は、本製品ドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに入れ、「A:\WINDOWS.98」を入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。ここでは、フロッピーディスクドライブを「A:」と仮定します。

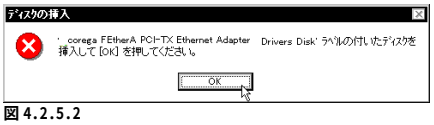


図 4.2.5.2

②「netapi.dll が見つかりませんでし た。」というようなメッセージが表示された場合

■プリインストール版 Windows98 の場合

この場合は Windows98 ファイルが既にハードディスクにコピーされています。ダイアログではディスクを入れるように要求されますが、そのまま「OK」をクリックしてダイアログを閉じ、「C:\windows\options\cabs」を指定してください。ここでは Windows98 の起動ディスクパーティションを C:と仮定します。

注意　「ファイルのコピー」ダイアログの途中で、本製品のドライバー(CAPCIX4.SYS)以外のファイルが見つからないと表示される場合があります。AT 互換機 /PC98-NX シリーズの場合は、パスとして「D:\win98」と入力し、PC9800/PC9821 シリーズの場合は、「Q:\win98n」と入力し、Windows98 の CD-ROM を指示してください。ここでは、CD-ROM ドライブ名をそれぞれ「D:」および「Q:」と仮定します。

9. 「新しいﾊｰﾄﾞｳｪｱﾃﾞﾊﾞｲｽに必要なソフトウェアのインストールがされました。」と表示されたら、「完了」をクリックします。

図 4.2.5.3

10. 「システム設定の変更」ダイアログが表示され、パソコンの再起動が要求されます。「今すぐ再起動しますか？」という問いに対して、「はい(Y)」をクリックしてください。(フロッピーディスクは、取り出してください。)

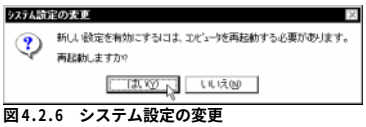


図 4.2.6　システム設定の変更

注意　インストール後の再起動時に、次のようなダイアログが表示されることがあります。その場合は、「いいえ」ボタンをクリックしてください。LAN 環境で TCP/IP をご使用になっている場合は、DHCP の設定に関してシステム管理者にご相談ください。

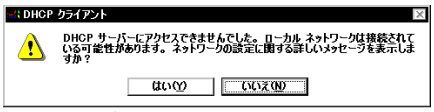


図 4.2.7 DHCP クライアント

11. 以上でドライバーのインストールは終了です。引き続き、「4.3 インストールの確認とアダプターの設定」にお進みください。

4.3 インストールの確認とアダプターの設定

パソコンを再起動し、はじめにドライバーのインストールが正常に行われていることを確認し、さらにネットワーク必要な情報(を設定してください。。

■デバイスマネージャによるインストール状態の確認

1. 「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「システム」をダブルクリックしてください。

2. 「デバイスマネージャ」タブをクリックしてください。インストールが正常な場合は、「ネットワークアダプタ」の下に「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter」が表示されます。

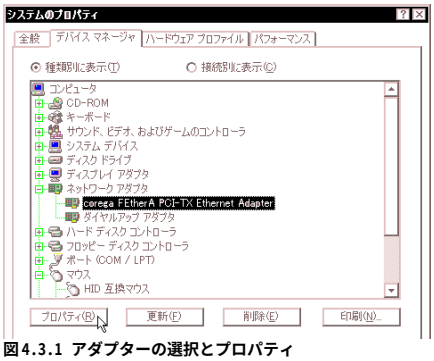


図 4.3.1 アダプターの選択とプロパティ

† 本製品のアイコンに「×」「?」「!」などのマークがついていたり、あるいはアイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく「不明なデバイス」や「その他のデバイス」にある場合は、インストールに失敗しています。

3. 「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter」を選択(反転表示)し、「プロパティ」→「全般」タブと進みます。「デバイスの状態」で「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることをご確認ください。

図4.3.2　正常に動作している場合

4. 本製品が使用するI/Oベースアドレス、インタラプト(IRQ)などは、Windows98によって自動的に設定されます。「リソース」タブを選択すると、これらを確認することができます。

図4.3.3　I/Oアドレスと IRQ の確認

■ネットワークの設定

「コントロールパネル」の「ネットワーク」ダブルクリックし、ネットワークの設定を起動します。使用するプロトコル、クライアントなどの必要な項目を設定し、「ネットワーク」ダイアログの「OK」ボタンをクリックしてください。†

† ネットワークの設定を終了すると、「システム設定の変更」ダイアログによってWindows98 再起動が要求され、再起動後に設定が有効になります。尚、ネットワークに関する設定についての詳細は、システム管理者にご確認ください。

4.4 ドライバーの更新

ドライバーの更新は、本製品の最新ドライバーを入手した場合や、Windows95からWindows98 へアップグレードした場合など、既に本製品を使用しており、ドライバーを更新する際に実行します。

1. Windows98 の供給 CD-ROM をご使用コンピュータの CD-ROM ドライブに挿入してください。

2. 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」と進みます。「ネットワークアダプタ」の下の「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter」を選択して、「プロパティ(R)」ボタンをクリックしてください。

図4.4.1

3. 次のダイアログで「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新(U)」ボタンをクリックしてください。

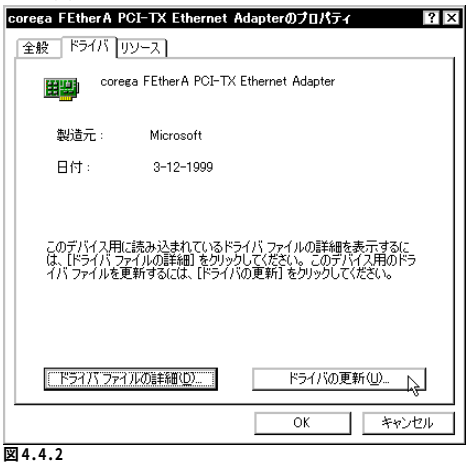


図4.4.2

4. 「デバイスドライバの更新ウィザード」が起動されます。「次へ」ボタンをクリックしてください。

図 4.4.3

5. 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」ラジオボタンを選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

図 4.4.4

6. 「ディスク使用(H)...」ボタンをクリックしてください。

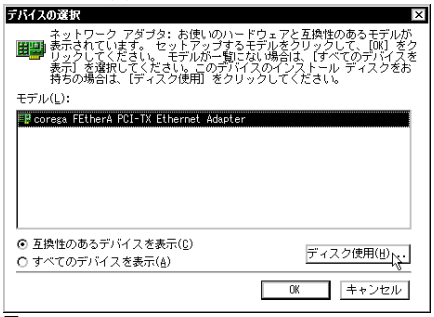


図 4.4.5

7. 本製品の最新のドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに入れ、次のダイアログで「A:\WINDOWS.98」を入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。ここでは、フロッピーディスクドライブを「A:」と仮定します。

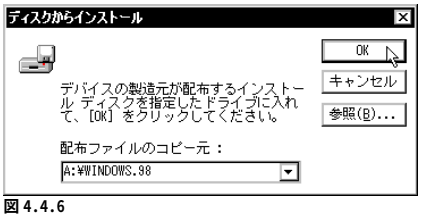


図 4.4.6

8. Windows98によって本製品のドライバーディスクが検索され、「デバイスの選択」ダイアログのモデル名には、「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter」が表示されますので、「OK」ボタンをクリックしてください。このダイアログは閉じ、図4.4.5に戻りますが、図4.4.5が自動的に閉じるまでそのまましばらくお待ちください(1～2分)。†

† 処理中ですので、マウスやキーボードには触れずにお待ちください。

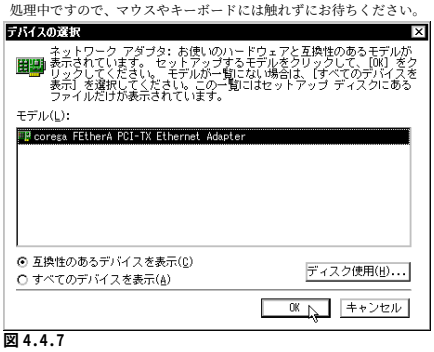


図 4.4.7

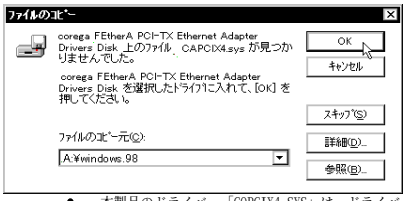
9. 次のダイアログで「ドライバのある場所」が「A:\WINDOWS.98\NETCOKK.INF」であることを確認し、「次へ」ボタンをクリックしてください。ここでは、フロッピーディスクドライブを「A:」と仮定します。

図 4.4.8

10. ファイルのコピーが開始されます。

■ コピーの途中で、Windows98 の CD-ROM が要求されたら、Windows98 の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブに入れ、「OK」ボタンをクリックしてください。

■ **「CAPCIX4.SYS が見つかりません」というような、ダイアログが表示された場合は、本ドライバーディスクが挿入されていることを確認し、「ファイルのコピー元」で「A:\windows.98」を指定し、「OK」ボタンをクリックしてください。**ここでは、フロッピーディスクドライブを「A:」と仮定します



⚠ 本製品のドライバー「COPCIX4.SYS」は、ドライバーディスクに入っております。

注意

「ファイルのコピー」ダイアログの途中で、本製品のドライバー(CAPCIX4.SYS)以外のファイルが見つからないと表示される場合があります。AT互換機/PC98-NXシリーズの場合は、パスとして「D:\win98」と入力し、PC9800/PC9821シリーズの場合は、「Q:\win98n」と入力し、Windows98のCD-ROMを指示してください。ここでは、CD-ROMドライブ名をそれぞれ「D:」および「Q:」と仮定します。

11. ドライバーの更新が終了します。「完了」ボタンをクリックしてください。

図4.4.11

12. Windows98の再起動を要求されます。フロッピーディスクドライブからドライバーディスクを取り出し、「はい(Y)」をクリックしてコンピュータを再起動してください。コンピュータは、更新されたドライバーを使用して再起動します。

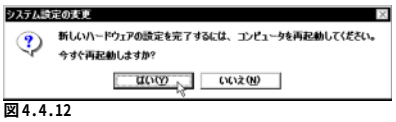


図4.4.12

4.5 ドライバーの削除

ドライバーの再インストールは、ドライバーをいったん削除してから行います。ドライバーのインストールに失敗した場合も、この手順にならい、間違ってインストールされたドライバーをまず削除してから、再びインストール作業を行います。

1. 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」と進み、「ネットワークアダプタ」の下から項目「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter」を選択し、「削除(E)」ボタンをクリックしてください。

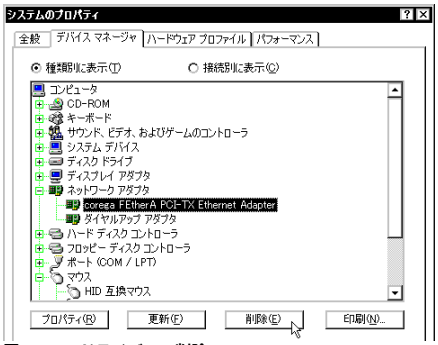


図4.5.1 ドライバーの削除

2. 次のダイアログが表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。

図4.5.2

3. ドライバーの削除が始まり、ドライバー情報が作成されます。次のダイアログが表示されたら、「いいえ(N)」ボタンをクリックしてください。

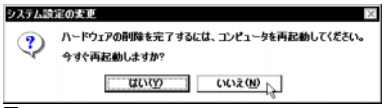


図4.5.3

4. 「ネットワークアダプタ」の下で本製品のアイコンが消えていることを確認し、「閉じる」をクリックしてください。

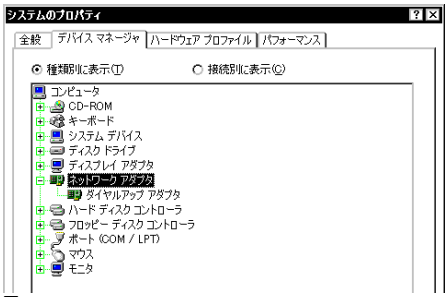


図4.5.4

5. Windows98を「終了」し、コンピュータの電源を切断し、PC拡張スロットから本製品を取り外してください。

ドライバを削除した後に、再び、本製品を使用する場合は、本製品を取り外さずに、Windows98を起動してください。すると再び、ドライバーをインストールが開始されますので、「4.7 ドライバーの再インストール」の“手順2.”(次頁)へお進みください。

6. 次回のWindows98起動時から、本製品のドライバーが削除された状態となります。

4.6 通信速度/通信モードの設定(詳細設定)

本製品をお客様のご使用になる環境(本製品の対向機器[ハブ、スイッチングハブなど]に応じ、通信速度(100M/10Mbps)および通信モード(Full Duplex/Half Duplex)を指定できます。デフォルトは、“AutoNegotiation”です。各項目の意味は以下の通りです。(尚、対向機器の詳細については、システム管理者にお問い合わせください。)

1. 「コントロールパネル」→「ネットワーク」のネットワークの設定ダイアログで「corega FEtherA PCI-TX Ethernet LAN Adapter」を選択し、「プロパティ(P)」ボタンをクリックしてください。

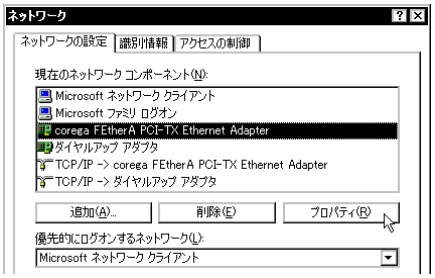


図 4.6.1

2. **ネットワーク設定の「詳細設定」タグをクリックし、値(V)のプルダウンリストリストより、該当の通信モード を選択し、「OK」をクリックします。設定項目については、Windows95(P10)「3.7 信速度 / 通信モードの設定(詳細設定)」ご覧ください。**

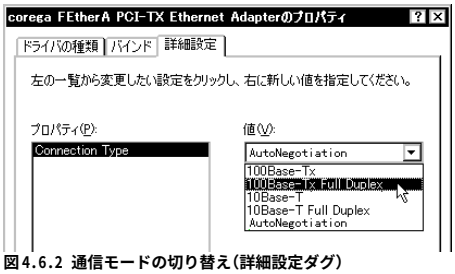


図 4.6.2 通信モードの切り替え(詳細設定ダグ)

3. **パソコンの再起動が要求されますので、「OK」をクリックしてください。**(この通信モードの設定は、パソコンを再起動すると有効になります。)

4.7 ドライバーの再インストール

「4.5 ドライバーの削除」の手順“1.”～“4.”でドライバーを削除し、本製品を取り付け、ドライバーをインストールする手順について説明します。

1. **本製品をコンピュータの拡張スロットに取り付けた状態で、コンピュータの電源を投入し、Windows98 を起動してください。**

2. **Windows98 は本製品を自動的に、「PCI Ethernet Controller」検出し、本製品のドライバーの再インストールを開始します。**

3. **ファイルのコピーが開始され、しばらくすると再インストールは終了します。**†1

コピーの途中で、Windows98 の CD-ROM が要求されたら、Windows98 の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブに入れ、「OK」ボタンをクリックしてください。

「CAPCIX4.SYS が見つかりません」というような、ダイアログが表示された場合は、本ドライバーディスクが挿入されていることを確認し、「ファイルのコピー元」で「A:\WINDOWS.98」を指定し、「OK」ボタンをクリックしてください。ここでは、フロッピーディスクドライブを「A:」と仮定します。

†1 再インストール後、Windows98 の再起動を要求される場合は、「はい(Y)」ボタンをクリックし、パソコンを再起動してください。再インストールされたドライバーを使用し、再起動します。

再インストールの途中で、Windows98 関連ファイルが見つからないと表示される場合があります。この場合は、AT 互換機 /PC98-NX シリーズの場合は、パスとして「D:\win98」と入力し、PC9800/PC9821 シリーズの場合は、「Q:\win98n」と入力し、Windows98 の CD-ROM を指示してください。ここでは、CD-ROM ドライブ名をそれぞれ「D:」および「Q:」と仮定します。

5 トラブルシューティング

ここでは、Windows95および、Windows98上でドライバーをインストール後の代表的なトラブルの対処方法について説明します。ここでは、Windows95 の画面で説明しています。

5.1 デバイスマネージャでのエラー

インストールが終了し、「インストール後の確認」に従い、インストール後の確認を行った際に、「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter」アイコンが以下のようになっている場合は、ドライバーのインストールに失敗しています。ドライバーをいったん削除し、再インストールしてください。手順は、各OSの「ドライバーの再インストール」をご覧ください。

図 5.1.1 「！」マークがついている例

■「ネットワークアダプタ」の項目がない場合

1) ドライバーインストールの中に、netapi.dll などの Windows 関連ファイルのインストールをキャンセルしてしまった。

■「その他のデバイス」や「不明なデバイス」の下にアイコンが表示されている

1) 以前、本製品のドライバーのインストールと削除を行ったことがあり、「新しいハードウエア」ダイアログで「ドライバをインストールしない」を選択するとこのような状況に陥ります。

■アイコンに「！」「？」「×」が付いている場合

1) ドライバーのインストール後、パソコンを再起動していない場合は、「!」マークが付きます。パソコンを再起動してください。
2) Windows95 VersionB または VersionC、Windows98 を使用時で「×」マークがついている場合は、「5.2 使用許可の切り替え」をご覧ください。

5.2 使用許可の切替
(Windows98、Windows95 の Version B または C のみ)

Windows98 及び、Windows95 の VersionB または VersionC の場合、「システムのプロパティ」→「デバイスマネージャ」でアイコンに「×」マークがある場合は「デバイスの使用不可」に設定していることも考えられます。この場合は以下の手順に従い、使用許可の状態を切り替えると本製品を使用できるようになります。

1. **「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter」を選択(反転表示)してから、「プロパティ」をクリックし、「情報」タブをクリックしてください。**
2. **「このハードウェア環境で使用不可にする」のチェックを外してください。**

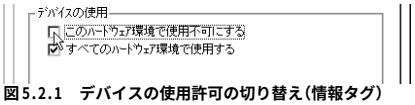


図 5.2.1　デバイスの使用許可の切り替え(情報タグ)

5.3 リソース値重複の回避

各OSの「ドライバーの再インストール」の手順に従い、ドライバーの削除および再インストール作業を行っても、なおアイコンに「?」、「!」、「×」マークが付いている場合は、他の拡張アダプターとリソースの値が重複している可能性があります。

特に、Plug & Play に対応していない他の拡張アダプターを本製品と共に使用している場合は、その拡張アダプターが使用するリソース値を Windows95/98 に予め登録(「予約」と呼びます)し、その値が他の Plug & Play 対応デバイス(本製品を含む)によって使用されないように設定しておかなければなりません。以下は、Windows95 で説明しております。。

1. **Plug & Play 非対応の拡張アダプターが使用するリソースの値(インタラプト(IRQ)、I/O ベースアドレス、メモリ、ダイレクトメモリアクセス(DMA))を調べておきます。詳細は、その拡張アダプターのマニュアルをご覧ください。または、メーカーにお問い合わせください。**
2. **「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」→「コンピュータ」→「コンピュータのプロパティ」ダイアログ→「リソースの予約」と進みます。**
3. **該当する項目(割り込み要求(IRQ)、I/O ポートアドレスなど)のラジオボタンを選択し、「追加(A)..」をクリックします。画面の指示にしたがって予約するリソースの値を登録してください。**

図 5.3.1　リソースの予約(起動時)

5.4 ご使用パソコンの確認

ご使用パソコンの OS が Windows95 や Windows98 のプリインストールタイプでない場合(Windows3.1 からアップグレートされたパソコンなど)は、ご使用のパソコン本体が Windows95/Windws98 の Plag & Play機能に対応していない可能性があります。インストール後やトラブルシューティングの手順で操作しても正常に動作しない場合は、ご使用パソコンメーカーへお問い合わせください。

5.5 ハードウェアの故障

以下のような現象の場合は、ご使用パソコンの PCI バスや本製品の故障と思われます。

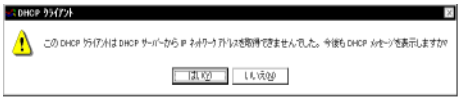
■ **昨日まで正常に動作していたのに、急に通信ができなくなってしまった。**

上記のような場合は、「PCI バスのハードウェア診断」を行う必要があります。現象および調査内容を本マニュアル巻末の「調査依頼書」に明記の上、corega サポートセンターまで FAX してください。(詳細は、**「付録 D ユーザーサポート」**をご覧ください。)

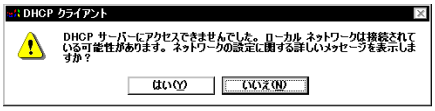
5.6 その他

ドライバーのインストール時にパソコンを再起動すると、以下のような「DHCP クライアント」ダイアログが表示されることがあります。その場合は、「いいえ」をクリックしてください。**DHCP サーバから IP アドレスを取得する設定が必要なお客様は、システム管理者にご相談ください。**

■ **Windows95 の場合**



■ **Windows98 の場合**



5.7 LINK ランプが点灯しない

以下の原因が考えられますので、ご確認ください。

1) **ネットワークケーブルの切断、または、不良。**
2) **使用しているネットワークケーブルのタイプが違う。**
   パソコンとパソコンをＨＵＢを使用せずに直線ケーブルで接続する場合は、クロスケーブルが必要になります。通常のストレートケーブルでは、LINKランプが点灯する状態にはなりません。
3) **ドライバーが正常にインストールされていない。**
   Windows95 の場合は、「3.4　インストール後の確認　」、Windows98 の場合は、「4.3　インストール後の確認」を再度、ご確認ください。

FEtherA-MAN.pm6　Page 18　00/05/19, 11:22　Adobe PageMaker 6.0J/Win

6 Windows NT Version 4.0

ここでは、Windows NT Version4.0上へ本製品用ドライバーをインストールする手順について説明します。また、本製品のインストールを始める前に、以下のことをご確認ください。各操作、設定の詳細についてはWindows NTのマニュアルやヘルプをご覧ください。

ここに挙げたインストール手順は一例です。お客様の環境によっては、手順や表示画面が若干異なることがありますので予めご了承ください。

本マニュアルでは、Windows NT Version 4.0 Workstation を用いて説明します。

Windows NT のハードウェア互換性リスト(Windows NT パッケージに同梱されています)に挙げられていないコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、お客様の責任においてご使用ください。それらのコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますので予めご了承ください。

6.1 準備

インストールを始める前に、以下のものをご用意ください。

1. **corega FEtherA PCI-TX アダプター、ネットワークケーブル**
2. **corega FEtherA PCI-TX ドライバーディスク(本製品に付属)**
3. **パソコン(Windows NT Version 4.0 Server または Workstation がインストール済みのものをご用意ください)**
4. **Windows NT Version 4.0(Server または Workstation)の供給 CD-ROM**

6.2 インストールする前に

1. **インストールを行う前に以下を準備してください。**
   - **① パソコンの拡張スロットに本製品を取り付けてください。取り付けの手順については、「2 設置・配線」やご使用のパソコンのマニュアルをご覧ください。**
   - **② 本製品をネットワークに接続してください。接続手順については、「2.3 ネットワークに接続する」やご使用対向装置(ハブなど)のマニュアルをご覧ください。**
2. **本製品をネットワークに接続します。詳細については、「2.3 ネットワークに接続する」を参照してください。**

6.3 ドライバーのインストール

ここでは、「アダプター用ドライバーを含むネットワーク環境が全くインストールされていない」場合における本製品用ドライバーのインストール手順について説明します。また、**ここでは、Windows NT Setupが要求する問いに対して、基本的にデフォルトで答えると仮定します。**

1. **「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。**

図6.3.1 「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコン

2. **今までにネットワーク環境をインストールしたことがなければ、次のダイアログが現れます†。「今すぐインストールしますか?」の問いに対して、「はい (Y)」をクリックしてください。**

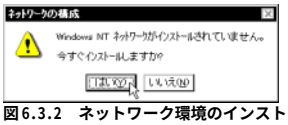


図6.3.2 ネットワーク環境のインストール要求画面

† このダイアログではなく「ネットワーク」ダイアログが表示される場合は、既にネットワークに関する WindowsNT ファイルがインストールされています。この場合は、「ネットワーク」ダイアログ→「アダプタ」→「追加」と進み、本製品のみのインストールとなります。(手順 5. へ進んでください。)

3. **「ネットワークセットアップウィザード」が表示されます。「ネットワークに接続 (W):」にチェックマークを付け、「次へ(N)>」をクリックしてください。**

図6.3.3 ネットワークに接続を選択

4. **「一覧から選択 (S):」をクリックしてください。**

図6.3.4 「一覧から選択(S)...」ボタン

5. corega FEtherA PCI-TXドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、「ディスク使用（H）」ボタンをクリックしてください。

図6.3.5

6. ディレクトリとして「A:\windows.nt」を入力し、「OK」をクリックしてください。ここでは、フロッピードライブを「A:」と仮定します。

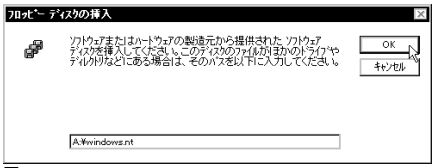


図6.3.6

7. 「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter」を選択し、「OK」をクリックしてください。

図6.3.7

8. 「ネットワークアダプタ（A）:」の「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter」にチェックが付いていることを確認し、「次へ（N）:」をクリックしてください。

図6.3.8

9. 使用するネットワークプロトコルにチェックマークを付け、「次へ（N）:」をクリックしてください。お客様のネットワークでどのようなプロトコルが使用されているかは、システム管理者にご相談ください。ここでは、「TCP/IPプロトコル」のみをチェックすると仮定します。

図6.3.9

10. 使用するサービスにチェックマークを付け、「次へ（N）:」をクリックしてください。お客様のネットワークでどのようなサービスが使用されているかは、システム管理者にご相談ください。

図6.3.10

11. メッセージを確認して、「次へ（N）:」をクリックしてください。

図6.3.11

12. Windows NTのインストール元のディレクトリを指定してください。（ここでは、CD-ROMドライブを「D:」と仮定します。）

■AT-互換機、PC98-NXｼﾘｰｽﾞの場合：「CD-ROMドライブ:\i386」

■PC-98シリーズの場合：「CD-ROMドライブ:\PC98」

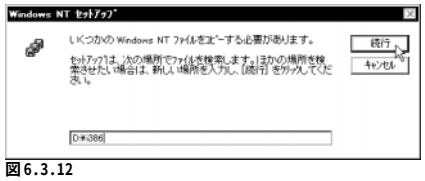


図6.3.12

13. 本製品の対向機器(ハブ、スイッチングハブなど)に合せて、通信速度(100M/10Mbps)及び、通信モード(Full Duplex/Half Duplex)を選択します。以下の各項目の説明を参考に、適切な通信速度と通信モードを選択し、「Continue」をクリックしてください。デフォルトは、AutoNegotiationです。

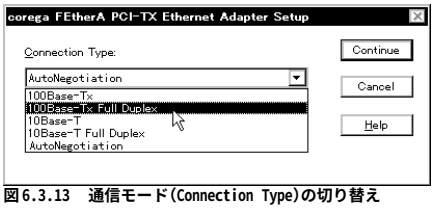


図 6.3.13　通信モード(Connection Type)の切り替え

尚、ご使用されている対向機器の詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

■ **AutoNegotiation**

Auto Negotiation を有効(Enable)に設定します。†

† 但し、本製に品接続されている対向装置の仕様により通信動作が異なりますので、以下を参照してください。

対向装置が AutoNegotiation をサポートしている場合

通信可能な最高の通信速度(100/1/Mbps)及び、通信モード(Full/Half Duplex)となります

対向装置が AutoNegotiation をサポートしていない場合

AutoNegotiation をサポートしていない場合、または、Auto negotiation を無効に設定している場合は、通信速度のみを自動的に検出し、検出された速度の Half Duplex(半二重通信)モードとなります。 従って、 対向装置が AutoNegotiation をサポートしておらずに 100Mbps の Full Duplex(全二重通信)モード をサポートしている場合は、「100Base-Tx Full_Duplex」を選択する必要があります。

■ **100BaseTx**

100Mbps の Half Duplex(半二重通信)モードに設定します。

■ **100BaseTx Full_Duplex**

100Mbps の Full Duplex(全二重通信)モードに設定します。

■ **10BaseT**

10Mbps の Half Duplex(半二重通信)モードに設定します。
通常の 10M ハブはこのモードです。

■ **10BaseT Full_Duplex**

10Mbps の Full Duplex(全二重通信)モードに設定します。

14. ドライバーのコピーが始まります。手順9.で「TCP/IP」を選択した場合は、ここで、「DHCPを使用するか？」を質問されます。ここでは、デフォルトである「いいえ (N)」をクリックすると仮定します。これらの設定は、お客様の環境に合わせて設定してください。

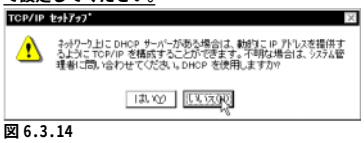


図 6.3.14

15. 手順14.で「DHCPを使用しない」と設定した場合は、「TCP/IPのプロパティ」としてIPアドレスやなどの値を設定しなければなりません。これらの値は、お客様の環境における値を入力するか、システム管理者にお問い合わせください。

① IPアドレス、サブネットマスク、ゲードウェイアドレスなどを設定します。

図 6.3.15.1

② DNS(Domain Name System)の設定をします。「DNS」のタブをクリックしてください。次に入力例を示します。ここでは、ホスト名として「corega01」と仮定しています。

図 6.3.15.2

③ 「WINS(Windows Internet Name Service)アドレス」の設定を行います。ここでは、「Windows名前解決にDNSを使う(N)」を仮定しました†1。必要であれば、「ルーティング」を設定し、最後に「OK」をクリックしてください。

図 6.3.15.3

† 1　この図は Windows NT Workstation の場合の例です。Windows NT Server をご使用の場合はさらに「DHCP リレー」タブがあります。詳細はシステム管理者にご確認ください。

16. 「次へ (N)」をクリックしてください。

図 6.3.16

17. 「次へ (N)」をクリックしてください。

図 6.3.17

18. 「次へ (N)」をクリックしてください。ここでは、「コンピュータ名」として「COREGA01」、「ワークグループ」として「COREGA」をそのまま使用すると仮定します。

図 6.3.18

19. 「完了」をクリックしてください。

図 6.3.19

20. パソコンの再起動を要求されますので、「はい (Y)」をクリックし、パソコンを再起動してください。(フロッピーディスクは、取り出してください。)

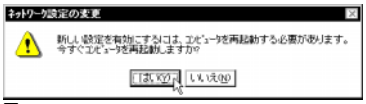


図 6.3.20

6.4 リソースの確認(インストール後)

パソコンを再起動すると本製品に対してリソース(I/O アドレス、インタラプトレベル)が割り当てられます。これらの値は、PCIローカルバス仕様によりパソコンに自動的に設定され、管理されます。割り当てられた値を確認する場合は、「Windows NT診断プログラム」をご使用ください。

1. 「スタート」→「プログラム」→「管理ツール(共通)」→「Windows NT 診断プログラム」で「リソース」タブをクリックします。

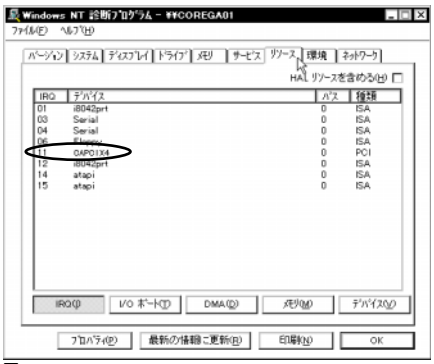


図 6.4.1

2. 「Windows NT 診断プログラム」ダイアログの「リソース」タブで、「CAPCIX4」を選択してから、「デバイス(V)」ボタンをクリックした後で、「プロパティ」をクリックしてください。本製品に割り当てられたリソースが表示されます。

図 6.4.2　リソースの表示

6.5 本製品を使用しないとき

ドライバーのインストール後、一時的に本製品やネットワークを使用しないときは†1、ドライバーをアンロード(無効に)してください。ドライバーがロードされたまま前述の作業(ドライバーのインストール)を行った場合、Windows NTはこれらの現象をネットワークのエラーとして検出し、イベントビューアによる警告が表示されるようになります。**この現象はドライバーをアンロードすることによって回避できます。**

1. **「コントロールパネル」→「ネットワーク」→「バインド」タブと進みます。「バインドの表示」で「すべてのアダプタ」を選択してください。**

2. **「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter」アイコンを選択し、「無効(D)」ボタンをクリックしてください。**

図6.5.1　ドライバーのアンロード(無効にする)

3. **製品やプロトコルなどが無効を示すアイコンに変わります。使用を再開する場合は、本製品のアイコンを選択し、「有効(E)」ボタンをクリックしてください。**

図6.5.2　全ドライバーがアンロード(無効)の状態

†1　ネットワークケーブルを外している、対向機器(ハブなど)の電源をオフにしている場合などの状態をいいます。

6.6 ドライバーの削除

本製品を「パソコンから取り外したい」、「ドライバーを再インストールしたい」という場合は、設定されているドライバーを削除しなければなりません。以下の手順でドライバーを削除してください。†1

1. **「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」と進み、「ネットワーク」パネルの「アダプタ」タブをクリックしてください。**

2. **「ネットワークアダプタ (N):」で「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter」を選択し、「削除 (R)」ボタンをクリックしてください。**

図6.6.1 ドライバの削除

3. **削除の確認ダイアログが表示されますので、「はい」をクリックし、(フロッピーディスクが入っている場合は取り出して)コンピュータを再起動します。**

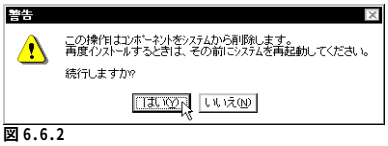


図6.6.2

†1　ドライバーを削除しても、本製品にバインドしていたプロトコルやサービスは削除されません。したがって、本製品を再インストールすれば、再びプロトコル、サービスなどを使用できます。再インストール方法については、**「6.8 再インストール」**を参照してください。(但し、一部の設定値、TCP/IPにおけるIPアドレスなどは削除されます。)

6.7 通信速度/通信モードの設定(詳細設定)

本製品をお客様のご使用になる環境(本製品の対向機器[ハブ、スイッチングハブなど]に応じ、通信速度(100M/10Mbps)および通信モード(Full Duplex/Half Duplex)を指定できます。デフォルトは、"AutoNegotiation"です。各項目の意味は以下の通りです。(尚、対向機器の詳細については、システム管理者にお問い合わせください。)

1. **「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」と進み、「ネットワーク」パネルの「アダプタ」タブをクリックしてください。**

2. **「ネットワークアダプタ (N):」で「corega FEtherA PCI-TX Ethernet Adapter」を選択し、「プロパティ(P)」ボタンをクリックしてください。**

図6.7.1 アダプターの選択

3. **通信速度および通信モードの切り替えダイアログの「Connection Type」フィールドの「▼」ボタンをクリックします。**

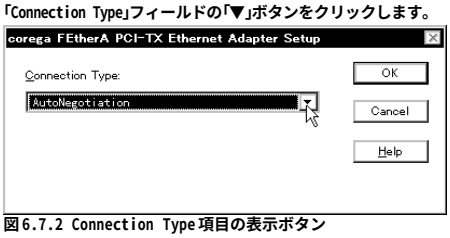


図6.7.2 Connection Type項目の表示ボタン

4. **プルダウンリストより該当する通信速度および通信モードを選択し、「OK」をクリックします。**

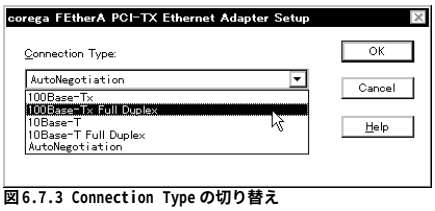


図6.7.3 Connection Type の切り替え

Connection Typeの項目

■AutoNegotiation

Auto Negotiation を有効(Enable)に設定します。†

† 但し、本製品に接続されている対向装置の仕様により通信動作が異なりますので、以下を参照してください。

対向装置が AutoNegotiation をサポートしている場合

通信可能な最高の通信速度(100/1/Mbps)及び、通信モード(Full/Half Duplex)となります

対向装置がAutoNegotiation をサポートしていない場合

AutoNegotiation をサポートしていない場合、または、Auto negotiation を無効に設定している場合は、通信速度のみを自動的に検出し、検出された速度の Half Duplex(半二重通信)モードとなります。従って、 対向装置がAutoNegotiation をサポートしておらずに 100Mbps の Full Duplex(全二重通信)モード をサポートしている場合は、「100Base-Tx Full_Duplex」を選択する必要があります。

■100BaseTx

100Mbps のHalf Duplex(半二重通信)モードに設定します。

■100BaseTx Full_Duplex

100Mbps のFull Duplex(全二重通信)モードに設定します。

■10BaseT

10Mbps の Half Duplex(半二重通信)モードに設定します。通常の 10M ハブはこのモードです。

■10BaseT Full_Duplex

10Mbps の Full Duplex(全二重通信)モードに設定します。

5. **「ネットワーク」ダイアログに戻り、「閉じる」ボタンをクリックすると、パソコンの再起動が要求されます。「OK」をクリックし、パソコンを再起動してください。再起動することで、設定した通信速度および通信モードが有効となります。**

6.8 再インストール

「ドライバーのバージョンアップ」や「インストールを最初からやり直したい」というような場合は、以下の手順に従い、ドライバーの再インストールを実行してください。

1. **ドライバーを削除します。(ドライバーを削除した後、必ずパソコンを再起動してください)。**
   ※「6.6 ドライバーの削除」を参照してください。

2. **「ネットワーク」アイコン(コントロールパネル)をダブルクリックし、「アダプタ」タブを選択してから、「追加..」をクリックしてください。**

3. **「6.3 ドライバーのインストール」の"手順5."から再開することになりますが、既にインストール済みの項目に関するダイアログは表示されないことがあります。**

A 付録

A.1 製品仕様

(1) ハードウェア仕様

準拠規格: IEEE802.3 10BASE-T
IEEE802.3u 100BASE-TX、AutoNegotiation
PCI ローカルバス仕様 Rev2.1準拠
ACPI 仕様 Version1.0準拠

転送方式 :32bit PCI バスマスタ方式

通信速度 :100Mﾋﾞｯﾄ/ 秒(100BASE-TX)、/10Mﾋﾞｯﾄ/ 秒(10BASE-T)

対応機種 :PCI バス(ﾛｰｶﾙﾊﾞｽ仕様 Rev2.1 以降)搭載パソコン
(OADG 仕様の DOS/V 機、PC98-NXｼﾘｰｽﾞ、PC9821ｼﾘｰｽﾞ)

(2) 機械的仕様

外 形(ブラケット部分を除く) :54.0mm(W)× 119.5mm(D)

重量(WOL ケーブル[2g]は除く) :55.0 g

(3) 電気的仕様

動作電圧: DC +5V ± 5%

消費電流: 最大 250mA(@5.0V)

(4) 環境条件

温度: 0 ～ 50 ℃

湿度: 10% ～ 90%(ただし、結露なきこと)

(5) 電気雑音の発生防止 VCCI Class B

(6) 使用するハードウェア資源

DMA: 1チャネル

I/O: 連続した 256バイト

IRQ: 1つ

(注) これらの値は、PCI ローカルバス仕様により自動的に設定され、管理されます。ユーザーによるボード上または、ソフトウェアからの設定は必要ありません。

(7) ソフトウェア仕様

対応ＯＳ : Windows95/98、Windows NT4.0

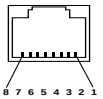
ドライバー : 32bit NDIS ドライバー

注意 **ACPI 機能、Wake On LAN 機能については、Windows2000(または、WindowsNT5.0)が正式にリリースされた後、弊社が提供する新ドライバーにより、動作が可能となりますので、予めご了承ください。**

A.2 RJ-45 モジュラージャック

本製品は、「RJ-45」と呼ばれるモジュラージャックを使用します。以下は、RJ45 モジュラージャックの信号線を図示します。

(1) TX+ 送信データ(+)
(2) TX- 送信データ(-)
(3) RX+ 受信データ(+)
(4) --- 未使用
(5) --- 未使用
(6) RX- 受信データ(-)
(7) --- 未使用
(8) --- 未使用



図A.2 RJ-45ﾓｼﾞｭﾗｰｼﾞｬｯｸ

A.3 MAC アドレス

Ethernet に接続されている機器は、“MAC アドレス†1”と呼ばれるアドレスを使い通信を行っています。MACアドレスは機器(アダプター)のそれぞれ固有に割り当てられた唯一無二(ユニーク)なアドレスです。MACアドレスは、6バイト(48ビット)によって構成されており、本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが任意にこの値を変更することはできません。本製品のMACアドレスは、本製品正面に貼付されている MAC アドレスラベルに記載されています。(表記は、全て 16 進数)

†1 MACアドレス(マックアドレスと読みます)は、物理アドレス、ネットワークアドレス、イーサネットアドレスと呼ばれることもあります。また、MACアドレスは、TCP/IP の環境で使用される IPアドレスと関係ありますが、これらは別物です。

B 保証と修理について

B.1 保証について

本書に記載されている「製品保証規定」を必ず、お読みください。本製品を正しくご使用ください。無条件で本製品を保証するということではありません。正しい使用方法で使用した場合のみ、保証の対象となります。また、物理的な破損等が見受けられる場合は、保証の対象外となりますので予めご了承ください。本製品(ドライバーディスクは除く)の保証期間については、保証書に記載されている保証期間をご覧ください。

B.2 修理について

故障と思われる現象が生じた場合は、まず取扱説明書を参照して、設定や接続が正しく行われているかを確認してください。現象が改善されない場合は、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、保証書を添付し、弊社サポートセンター宛てに製品を送付ください。製品を送付する際は、以下の点にご注意ください。

- **弊社サポートセンターへ製品を送付する際の送付料金につきましては、お客様のご負担とさせていただきます。尚、運送中の故障や事故に関しては、弊社はいかなる責任を負いかねますので、予めご了承ください。**
- **宅急便などの送付状の控えを残る方法で送付願います。**
- **修理期間は、製品到着後、約7日程度(弊社営業日数)を予定しております。**

■製品送付先

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜1-19-20
(株)コレガ サポートセンター宛

C corega Net-News の購読について

■ corega のホームページにアクセスください!

http://www.corega.co.jp

※ corega ホームページにアクセスすれば、商品の詳細やＰＣ動作検証リストはもちろん、ＦＡＱなどコレガに関するすべての情報が入手できます。ダイレクト・ショッピングからドライバーのダウンロードまで、便利なサービスも満載で、何でもおまかせのホームページです。

■ corega Net-News を購読しませんか?

http://www.corega.co.jp/inter/news/news.htm

※ corega Net-News は、コレガ社がお届けするメール配信サービスです。新製品情報やキャンペーン、プレゼント情報など、耳よりなニュースをお届けします。ホームページのアップデート情報もお知らせしますので大変便利です。

上記のアドレスでどなたでもご登録いただけますので、是非、ご登録ください。

FEtherA-MAN.pm6 Page 25 00/05/19, 11:23 Adobe PageMaker 6.0J/Win

D ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、下記の番号まで FAXしてください。できるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。FAXによって詳細な情報を送付していただくほうが、電話による問い合わせよりも遥かに早く問題を解決することができます。記入内容の詳細は、「調査依頼書の記入について」をご覧ください。

corega サポートセンター

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜1-19-20
Tel: 045-476-6268
月～金(祝・祭日を除く)
10:00-12:00、13:00-17:00
Fax: 045-476-6294(年中無休 24 時間)

注意 電子メールによるサポートは行っておりませんので、予めご了承ください。

D.1 調査依頼書の記入について

調査依頼書は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。障害を解決するためにも以下の点にそって、十分な情報をお知らせください。記入用紙で書き切れない場合には、別途プリントアウトなどを添付してください。

■ハードウエアとソフトウエア

*** 本アダプタ上に貼られたラベルに記入されているシリアル番号(S/N)、製品リビジョンコード(Rev) を調査依頼書に記入してください。**

*** ご使用になっているソフトウエアの種類／バージョン(Ver.)／シリアル番号を記入してください。それらは、ドライバディスクのラベル上に記入されています。**
*** 他社のインターフェースボードやユーティリティをご使用の場合は全てご記入ください。**
*** 接続しているサーバーの機種とその環境も可能な限りご記入ください。**

■お問い合わせ内容について

*** どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを具体的に(再現できるように)記入してください。**
*** エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトしたものなどを添付してください。**
*** 障害が発生する場合には、本アダプタと併用されているユーティリティやアプリケーションの処理内容もご記入ください。**

■ネットワーク構成について

*** ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。**
*** 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。**

D.2 システムリソースレポート添付のお願い

お問い合わせの際には可能な限り、システムリソースレポート(お使いのコンピュータの詳細情報を OS が自動作成するレポート)を出力の上、「調査依頼書」に添付いただきますようお願いいたします。システムリソースレポートを出力する手順は以下の通りです。

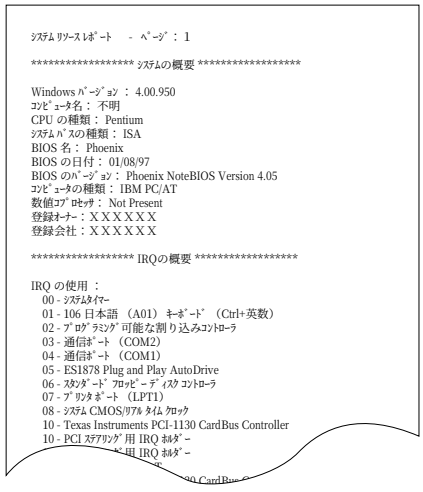
■ Windows95 または、Windows98

(1) コントロールパネルから「システム」を起動し「デバイスマネージャ」タブを表示します。
(2) 「印刷(N)...」ボタンをクリックします。
(3) 「レポートの種類」では「すべてのデバイスとシステムの概要(A)」を選択してください。以後、画面の指示にしたがってください。

■ Windows NT Version 4.0

(1) 「スタート」→「プログラム」→「管理ツール(共通)」→「Windows NT診断プログラム」と進み、「Windows NT診断プログラム」を起動します。
(2) 「印刷(N)...」ボタンをクリックします。
(3) 「レポートの作成」が表示されます。各オプションについては、「範囲」は「すべてのタブ(A)」を、「詳細レベル」は「完全(M)」を選択してください。以後、画面の指示にしたがってください。

■システムリソースレポートの出力例(Windows95 の場合)



システム リソース レポート - ページ : 1

********** システムの概要 **********

Windows バージョン : 4.00.950
コンピュータ名 : 不明
CPU の種類 : Pentium
システム バスの種類 : ISA
BIOS 名 : Phoenix
BIOS の日付 : 01/08/97
BIOS のバージョン : Phoenix NoteBIOS Version 4.05
コンピュータの種類 : IBM PC/AT
数値コプロセッサ : Not Present
登録オーナー : ＸＸＸＸＸＸ
登録会社 : ＸＸＸＸＸＸ

********** IRQの概要 **********

IRQ の使用 :
00 - システムタイマー
01 - 106 日本語 (A01) キーボード (Ctrl+英数)
02 - プログラミング可能な割り込みコントローラ
03 - 通信ポート (COM2)
04 - 通信ポート (COM1)
05 - ESS1878 Plug and Play AutoDrive
06 - スタンダード フロッピー ディスク コントローラ
07 - プリンタ ポート (LPT1)
08 - システム CMOS/リアル タイム クロック
10 - Texas Instruments PCI-1130 CardBus Controller
10 - PCI スチアリング用 IRQ ホルダー
[illegible] IRQ ホルダー

D.3 最新ドライバーの入手方法

弊社は、改良のために予告なく、本製品のドライバーのバージョンアップやパッチレベルアップを行うことがあります。最新のドライバーは、弊社のホームページから入手することができます。

(1) Microsoft Internet Explorer、Netscape Navigator などの Web ブラウザを使用して、弊社のホームページ「http://www.corega.co.jp」にアクセスしてください。
(2) 「サポート」→「LAN カード・ドライバソフトダウンロード」をクリックしてください。
(3) ご希望のドライバーをクリックしてください。

FEtherA-MAN.pm6 Page 26 00/05/19, 11:23 Adobe PageMaker 6.0J/Win

E　ネットワークの設定例

インストール後にアダプターのインストールが正常であることを確認後にネットワーク環境に接続し、データを送受信するまでの設定方法について説明します。データを実際に送受信するためには、各々パソコンへの設定が必要となります。ここでは、「ピアツーピア接続」するためのネットワークの設定を例に挙げて説明しております。尚、設定する項目は、お客様の環境に合わせて設定してください。†

† ここでは、Windows98 の画面で説明していますので、ご使用 OS の画面に合わせて設定してください。

E.1 ピアツーピア 接続するための設定方法

ピアツーピア接続するためには、以下①～④の順番で全てのパソコンに各ネットワーク設定を行ってください。

①Microsoft ネットワーククライアントと NetBEUI を確認する。
→「E.2 Microsoft ネットワーククライアントと NetBEUI の確認」

設定するパソコンに「Microsoft ネットワーククライアント」、「NetBEUI」が表示されない場合は、ネットワーク構成に追加する必要があります。（**「E.7 Microsoft ネットワーククライアントと NetBEUI の追加方法」を参照。）**

②「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加する。
→「E.3 Microsoft ネットワーク共有サービスの追加方法」

③ユーザー情報(コンピュータ名、ワークグループ名、コンピュータの説明)を確認する。
→「E.4 ユーザー情報の確認手順」

④パソコンの共有を設定する。
→「E.5 パソコンの共有設定の方法」

上記①～④を全て設定し確認ができたら、実際に他のパソコンへ接続してみましょう。「E.6 他のパソコンへ接続方法」へとお進みください。

E.2 Microsoft ネットワーククライアントと NetBEUI の確認

以下の手順に従い、Microsoft ネットワーククライアント」、「NetBEUI」がネットワーク構成に組み込まれているかを確認してください。

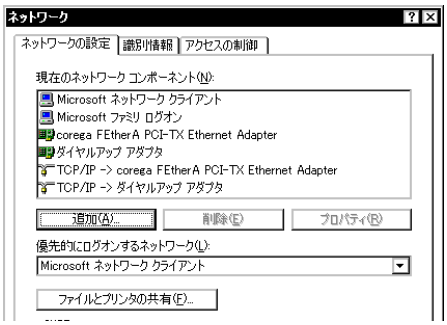
(1) 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」と進みます。

(2) 「コントロールパネル」より、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

(3) 「ネットワーク」ダイアログボックスの「現在のネットワーク構成(N)」の一覧に「Microsoft ネットワーククライアント」と「NetBEUI」が表示されていることを確認してください。

組み込まれていない場合は、「E.7 Microsoft ネットワーククライアントの追加方法」及び「E.8 NetBEUI の追加方法」で追加してください。

■ネットワークアダプターが複数の場合の例



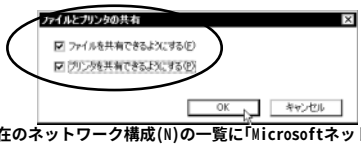
† 組み込まれているネットワークアダプターが本製品だけの場合は、アダプターの製品名(例 corega Ether USB-T)は表示されません。

E.3 Microsoft ネットワーク共有サービスの追加方法

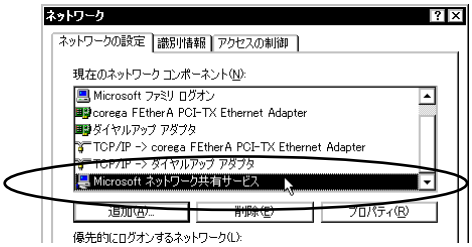
以下の手順に従い、Microsoftネットワーク共有サービス」を追加してください。

(1) ネットワーク設定にある「ﾌｧｲﾙとﾌﾟﾘﾝﾀの共有(F)」メニューをクリックします。

(2) 「ﾌｧｲﾙとﾌﾟﾘﾝﾀの共有」ダイアログの「ﾌｧｲﾙを共有できるようにする」および「ﾌﾟﾘﾝﾀを共有できるようにする」のチェックボックスをクリックして(オン)、「OK」ボタンをクリックします。



(3) 現在のネットワーク構成(N)の一覧に「Microsoftネットワーク共有サービス」が、追加されます。



E.4 ユーザー情報の確認手順

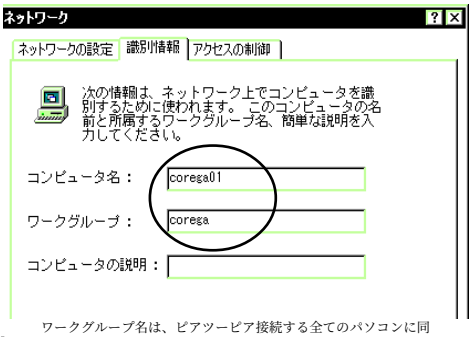
続いて以下の手順に従い、ユーザー情報を確認してください。

(1) 「ネットワーク」ダイアログの「識別情報」タブをクリックします。

注意 Windows95 の場合は、上図の「識別情報」タブが「ユーザー情報」タブとなります。

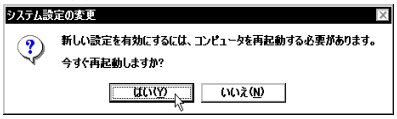
(2) 「識別情報」タブに表示される「コンピュータ名」、「ワークグループ名」、「コンピュータの説明」を確認します。

FEtherA-MAN.pm6 Page 27 00/05/19, 11:23 Adobe PageMaker 6.0J/Win



ワークグループ名は、ピアツーピア接続する全てのパソコンに同じ名前(グループ名)を設定してください。 例)corega
また、コンピュータ名およびワークグループ名の入力には、15文字以下の半角英数文字を使用します。詳細は、Windows98のマニュアルおよびオンラインヘルプをご覧ください。

(3) 「システム設定」ダイアログが表示され、パソコンの再起動が要求されます。「今すぐ再起動しますか？」という問いに対して、「はい(Y)」ボタンをクリックします。



(4) パソコンを再起動すると、起動時に「ネットワークパスワードの入力」ダイアログが表示されますので、「ユーザ名」と「パスワード」を入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。

「ユーザー名」と「パスワード」は、毎回必ず入力してください。特にパスワードは、自由に決定できますが、忘れないようにご注意ください。入力しない(または、間違っている)場合は、ネットワークを使用できません。

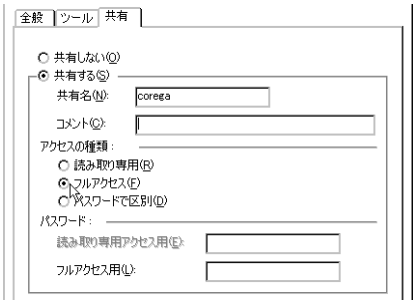
E.5 パソコンの共有設定の方法

ドライブやフォルダの共有を(ネットワーク経由でファイルの読み書きができるように)設定します。ここでは、「マイコンピュータ」の中のCドライブを共有する手順を例に挙げます。以下の手順に従い、ドライブやフォルダを共有設定してください。

(1) デスクトップにある「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

(2) 共有したいドライブ(または、フォルダ)のアイコンをマウスの右ボタンでクリックし、メニューから「共有」メニューを選択します。

(3) 以下の共有設定画面の「共有する(S)」チェックボックスを選択し、「共有名」、「コメント」、「アクセス権の種類」、「パスワード」を確認または、設定し、「OK」ボタンをクリックします。



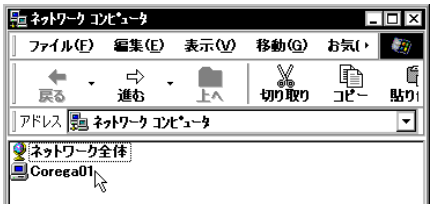
●共有しない ：ドライブの共有を解除するときに選択します。
●共有する ：ドライブの共有を設定するときに選択します。
●共有名 ：共有するドライブの名称を変更できます。
●コメント(C) ：共有するドライブやフォルダに対する説明を入力します。(説明は、省略可能です。)
●ｱｸｾｽ権の種類：共有するドライブに対して読み書きの許可を設定します。
・読み取り専用(R)：共有するドライブを読み込み専用にします。
・スルアクセス(F)：共有するドライブに読み書きを許可します。
・ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞで区別(D)：パスワードにより、読み書きを許可します。
●パスワード ：「アクセス権の種類」に対するパスワードです。
・読み取り専用ｱｸｾｽ用(E)：読み取りを許可するときのパスワードを設定します。
・フルアクセス用(L)： 読み書きを許可するときのパスワードを設定します。

E.6 他のパソコンへ接続方法

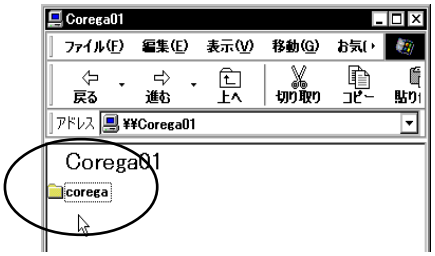
「E.2～E.5」でネットワーク設定が全て完了したら、他のパソコンに接続してみましょう。以下の手順で接続します。

(1) デスクトップ上の「ネットワークコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。ピアツーピア接続されているパソコンが表示されます。

(2) 表示されているパソコンのアイコンから接続したいパソコンをダブルクリックしてください。



(3) 「E.5　パソコンの共有設定」で、「共有する」と設定されたドライブ(またはフォルダ)が共有名で表示されます。



(4) 上記3)で表示されたドライブ(またはフォルダ)の共有名アイコンをダブルクリックすると、「共有する」と設定されている中身(ファイルやフォルダ)が表示され、アクセスが可能となります。

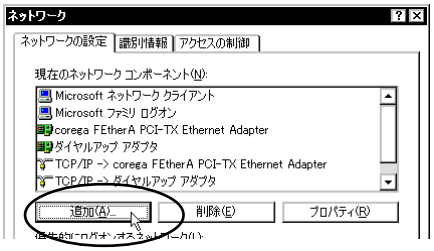
タイミングによって接続したいパソコンが表示されない事もあります。その際は、「ネットワークコンピュータ」を再表示、または「表示」メニューの「最新の情報更新」を選択してください。

以上で、LANアダプタの設定は全て完了です。ネットワークを利用した快適な環境でパソコンをお使いください。

E.7 「Microsoft ネットワーククライアント」と「NetBEUI」の追加方法

ここでは、「Microsoft ネットワーククライアント」および「NetBEUI」の追加方法について説明します。以下の手順に従い、操作してください。

(1) 「スタート」メニューの「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」を選択し、「ネットワーク」ダイアログで、「追加(A)」ボタンをクリックしてください。

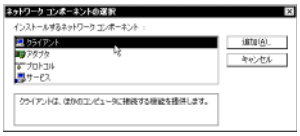


(2) 「インストールするネットワーク構成ファイル」の一覧より、**「Microsoftネットワーククライアント」の場合は、**「クライアント」を、「NetBEUI」の場合は、「プロトコル」を選択し、「追加(A)」ボタンをクリックします。以下を参考に「Microsoftネットワーククライアント」および「NetBEUI」を追加し、最後に「OK」ボタンをクリックしてください。

●Microsoft ネットワーククライアント

「追加(A)」→「クライアント」と進み、以下を選択し、「OK」ボタンを押します。

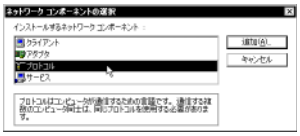
- 「製造元」→「Microsoft」
- 「ネットワーククライアント」→「Microsoftネットワーククライアント」



●NetBEUI

「追加(A)」→「プロトコル」と進み、以下を選択し、「OK」ボタンを押します。

- 「製造元」→「Microsoft」
- 「プロトコル」→「NetBEUI」



「E.2　Microsoft ネットワーククライアント、NetBEUI の確認」に戻り、「NetBEUI」、「Microsoftネットワーククライアント」が追加されていることを確認してください。

おことわり

- 本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- 本装置の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©1999　株式会社コレガ

coregaは、株式会社コレガの商標です。
イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
Windows95、Windows98、Windows NT、Windows2000は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
PC98-NXは、日本電気株式会社の商標です。
その他の会社名や製品名、ハードウェア機種名などは、それぞれの会社の登録商標です。

1999年4月1日　　Ver.1.0 pl 0　初版

調査依頼書(corega FEtherA PCI-TX 1/2)

年　月　日

一般事項

1. 御社名：　　フリガナ　：
   部署名：　　ご担当者名：
   ご連絡先住所：〒

   TEL:　(　　)　　FAX:　(　　)
2. 購入先：　　購入年月日：
   購入先担当者：　　購入先(TEL):　(　　)

ハードウエアとソフトウエア

1. ご使用のハードウエア機種（製品名)、シリアル番号、リビジョン

   製品名：corega _____　S/N_____ Rev___

   ドライバディスクのバージョン Ver._____ pl ___

2. ご使用のパソコン機種と併用している他メーカーの拡張アダプタ（ボード)
   パソコンのメーカー名／機種：
   OSとバージョン：
   拡張アダプタのメーカー名／機種：

3. ご使用のサーバー機種（UNIX、NetWare、WindowsNTなど)
   パソコンのメーカー名／機種：
   OSとバージョン：

お問い合わせ内容

□別紙あり　□別紙なし
□設置中に起こっている障害　□設置後、運用中に起こっている障害

FEtherA-CHOSA.pm6　Page 30　00/05/19, 11:23　Adobe PageMaker 6.0J/Win

調査依頼書(corega FEtherA PCI-TX 2/2)

年　月　日

ネットワーク構成

□別紙あり □別紙なし
簡単なもので結構ですからご記入をお願いします。

FEtherA-CHOSA.pm6 Page 31 00/05/19, 11:23 Adobe PageMaker 6.0J/Win

メモ

FEtherA-CHOSA.pm6 Page 32 00/05/19, 11:23 Adobe PageMaker 6.0J/Win

製品保証規定

■この製品保証規定は、製品保証書に明記した期間内において、取り扱い説明書などにしたがった正常な使用をしていたにもかかわらず故障が発生した場合に、無償修理をお約束するものです。

・LANアダプター本体：製品保証書に記載の“保証期間”で無償保証とします。
（但し、本規定の他の条項に準じます。）

・本体付属品（ドライバディスク、WOLケーブルなど）：90日間保証

■保証期間内の無償修理は、故障製品を弊社までお送りいただき、修理完了品または代替品をお客様に返送することとします。表面の製品保証書に記載された「製品保証に関するお問い合わせ先」まで故障製品を送付してください。送料はそれぞれ送付元負担とさせていただきます。

■保証期間内であっても次の項目に該当する場合は、無償修理の適用外とさせていただきます。（ただし、無償修理の適用外であっても有料での修理または代替品への交換・サービスはご利用いただけます。）

1. 使用上の誤り、または不当な修理や改造によって生じた故障および損傷
2. お買い上げ後の輸送、移動、落下などによって生じた故障および損傷
3. 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害、塩害、異常電圧などの外部要因によって生じた故障および損傷
4. 接続された他の機器が原因で生じた故障および損傷
5. 車両、船舶などに搭載されたことによって生じた故障および損傷
6. 消耗品の交換（バックアップ電池など）
7. 製品保証書の提示がない場合
8. 製品保証書の所定事項に記入がない場合、または字句を不当に書き換えられた場合

■修理によって交換された代替品、不良部品の所有権は弊社に帰属するものとします。

■本製品添付のドライバーソフトウェアが他社の提供するハードウェアまたは、アプリケーション・ソフトと共有できるという動作保証および、使用によるその他の損害についての保証は、行いません。

■本ハードウェアが他社の提供するソフトウェアまたは、アプリケーション・ソフトと共有できるという動作保証および、使用によるその他の損害についての保証は行いません。

■製品保証規定は、本製品についてのみ無償修理をお約束するもので、本製品の故障または使用によるその他の損害については、弊社はその責を一切負わないものとします。

■製品保証書は、日本国内のみで有効です。

■製品保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

製品保証書　（１年保証）

この製品保証書は、株式会社コレガが定める製品保証規定（裏面）に基づき、製品の無償修理をお約束するものです。

製 品 名　corega FEtherA PCI-TX

シリアル番号
（S／N）

ご購入日

製品保証に関するお問い合わせ先

coregaサポートセンター

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜1-19-20

TEL：045-476-6268　FAX：045-476-6294

受け付け時間：10:00～12:00／13:00～17:00

月～金（祝・祭日を除く）

販売店様印

※ 本保証書にお買い上げ販売店の記名及び押印が無い場合は、有償扱いとなりますので予めご了承ください。

※ 製品名、シリアル番号、ご購入日をご記入ください。